

地目變換ノ場合ニ於テハ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第二十三條 前條ニ依リ毀壞燬失流亡等ノ届出アリタルトキハ表題部中取消欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ朱抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十三條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記鐵ス可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中ニ記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ
前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徵收ス

登記法第四十一條ニ依リ土地臺帳所管廳ヨリ變換ノ通知ヲ受ケタルトキモ亦表題部ノ物件ニ付テ訂正ヲ爲スヘシ

第二十四條 船舶ノ登記ニ付テハ明治二十三年勅令第二十九號船籍規則第一條ニ依リ定メタル船籍港ヲ管轄スル登記所ヲ以テ定繫場ノ登記所トス

第二十五條 商法ニ依リ爲スヘキ船舶ノ登記ハ明治二十三年省令第八號第六條第七條及ヒ第十條ヲ適用ス

第二十六條 鑑札アル船舶ニ付初メテ登記ヲ請フモノハ其鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限リニ在ラス

商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ請フモノハ船籍證書其他商法ノ規定ニ從ヒ必要ナル證明書類ヲ示ムヘシ

第二十七條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定繫場ヲ更改シタルトキハ登記ノ變更ヲ請フ可シ其登記所ハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ

記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ書入質入又ハ差押等トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記スヘシ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ヲ朱抹ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ抜書ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フヘシ

前項ノ抜書ニハ現存セル所有權、書入質、差押其他ノ負債ヲ摘載シ且轉出ノ旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシノ其登記所ハ其抜書ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知ヲ送登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ前項ノ例ニ準シ轉出ノ旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一號第二號ノ規定ニ依リ變更及ヒ抜書ノ手数料ヲ徵收スルモノトス

第二十八條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出スヘシ
建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數、(段別)方位及ヒ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受クヘキ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲スヘシ

建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除ク外結約者双方之ニ署名捺印スヘシ但同第十五條第二項ノ場合ニ於テハ屬又ハ近隣戶主之ニ連署スヘシ

地所船舶ニ付圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス

第二十九條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ帳簿ニ編入スヘシ

第三十條 登記ノ爲メ差出シタル原證書ニハ登記濟ノ上登記官吏之ニ登記物件ノ番號及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ年月日ヲ附シ且登記所ノ印ヲ捺シテ受取證持參人ニ其受取證ト引換ニテ還付ス可シ

前項ノ記載ヲ以テ登記法第二十條ニ定メタル登記濟ノ證トス但此記載ヲ爲スヘキ證書ナキトキハ物件ヲ記シタル書面ヲ差出サシメ前項ニ準シ登記濟ノ旨ヲ記入シテ本人ニ下付スヘシ

第三十一條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲ス可キ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記簿中未タ登記ヲ爲サ、ル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルニトナ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第三以下ノ續ヲ設クルトキ亦此例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順番ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ

第三十二條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字畫ハ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ數量ヲ記スルニハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用ユヘシ
登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可シ
文字ハ之ヲ改竄ス可カラズ若シ削除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スヘシ

訂正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ登記官吏之ニ認印スヘシ
本條ノ規定ハ受付帳ニモ亦之ヲ適用ス

第三節 帳簿及ヒ謄本拔書

第三十三條 登記簿及ヒ受付帳ノ外登第所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 登記見出帳
- 二 證書謄本綴込帳
- 三 謄本下付帳
- 四 登記濟證下付帳
- 五 圖面綴込帳
- 六 請求書綴込帳
- 七 登記願書綴込帳
- 八 證明書綴込帳
- 九 名刺綴込帳
- 十 代理及ヒ後見ノ證書綴込帳

商法ニ依リ船舶登記ヲ受クル爲メ差出シタル書類ハ明治二十三年省令第八號第八條ニ從ヒ之ヲ保存スヘシ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ十五噸以上及ヒ百五十石以上ハ其船名ニ依リ其以下ノモノハ鑑札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番地ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス

同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノニ付テハ其分筆ノ爲メニ付シタル符號ヲ番地ノ下ニ記載スヘシ
同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別スヘシ

番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入書入ト爲ストキハ其各部ノ建物

ニ子丑寅卯ヲ符合ヲ付シテ之ヲ區別スヘシ

前三項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ヲ請フ爲ニ登記法第十四條第二十一條第一項及ヒ第二十三條ニ依リ差
出シタル證書ノ謄本ハ甲部乙部ニ別テ綴込ニ各箇ニ番號ヲ付シ且登記簿ノ市町村名冊
號及丁數ヲ記ス可シ其登記簿ニハ相當欄内ニ何部謄本綴込帳第何號ト記入スヘシ

甲部謄本綴込帳ハ登記簿中甲區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

乙部謄本綴込帳ハ登記簿中乙區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

謄本綴込簿ハ一箇年ヲ以テ一冊ト爲シ其表紙ニ明治何年分ト記ス可シ但事件夥多ナル
登記所ニ在リテハ第一第二ノ符號ヲ以テ一箇年分ヲ分冊シテ綴込ムコトヲ得

第三十六條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シテ
ル上登記簿ノ旨ヲ朱濟シ登記簿下付帳ト割印シテ之ヲ下付スヘシ

第三十七條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書箱ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持退ノ準備ヲ爲シ
勉テ紛亂毀損ヲ豫防スヘシ

登記ニ關スル帳簿ハ之ヲ保存スル爲メノ外登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十八條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ハ職務ヲ以テ閱覽スルノ外吏員ノ面
前ニ於テ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三十九條 登記簿ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者アルキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割
印シテ之ヲ下付スヘシ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ拔書ヲ下付スルヲ得

第四十條 謄本ハ登記簿用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ

拔書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ルヘシ

第四十一條 登記所ニ出頭セスシテ謄本又ハ拔書ヲ請フ者アルトキハ手数料ノ外郵送料
ヲ前納スルニ於テハ之ヲ送付スヘシ

第四節 登記料手数料及ヒ評價費用

第四十二條 登記印紙ハ名刺又ハ陳述書ニ之ヲ貼用ス可シ但登記官吏ハ貼用印紙ノ過不
足ヲ調査シタル後之ヲ消印セシムルコトヲ得

第四十三條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記料ヲ納ムル者ヨリ
登記所ノ見積タル費用金額ヲ豫納スヘシ

第四十四條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書
ヲ差出サシム可シ

評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自
意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ撰定スヘシ

第四十五條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金
ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ納完スルマテ登記ヲ
爲ス可カラス

第二章 特許 意匠及ヒ商標ノ登記

第四十六條 特許、意匠及ヒ商標ノ登記ハ農商務省特許局ノ通知ニ依リ第四號書式ニ準

シ之ヲ爲スモノトス

第四十七條 明治二十三年十一月一日以後ニ特許、意匠及ヒ商標ノ登録ヲ受ケ又ハ賣與、讓與、共有、書入ヲ爲シタル者其居住地ヲ轉スルトキハ從前ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ自身ニテ又ハ郵便ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ謄本ヲ作り之ヲ轉住地ノ登記所ニ送付シ登記簿ニ轉出ノ旨ヲ記載スヘシ

其送付ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ爲シ且轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ附記ス可シ

第四十八條 第三條第四條第三十二條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十條ハ本章ノ登記ニモ之ヲ適用ス

附則

第四十九條 既ニ登記簿ニ登記シタル船舶ニ付商法第八百二十五條又ヒ商法施行條例第二十九條ニ依リ登記ヲ請フモノアルトキハ登記官吏ハ其登記簿ノ物件欄内ノ餘白ニ商法第八百二十六條ニ規定シタル事項ノ追記シ年月日ヲ付シ署名捺印ス可シ

◎登記印紙規則

第一條 明治十九年八月法律第一號登記法ニ定メタル登記料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ納付スヘシ

第二條 登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記ニ關スル請求ノ書面ニ貼用シ請求人記名ノ

下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第三條 登記印紙ノ種類定價及其賣下ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 登記印紙ハ官廳ノ許可シタル賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌クコトヲ得ス若其賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌キタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ登記印紙ヲ買取シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 前條ノ規則ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス

第六條 本規則ハ明治二十一年十二月一日ヨリ施行ス

◎登記印紙ノ種類定價

今般勅令第六十六號登記印紙規則第三條ニ依リ登記印紙ノ種類定價ヲ定ムルヲ左如シ但印紙ノ見本ハ別ニ之ヲ頒示ス

登記印紙ノ定價 印紙ノ種類

一 貳錢五厘 茶褐色

一 五錢 同

一 拾錢 同

一 五拾錢 同

一 壹圓 青色

一 貳圓 同

- 一五圓 同
- 一壹錢 茶褐色 (二十三年十月三日大藏省令第二十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)
- 二三錢 同
- 一壹厘 綠色 (二十五年一日大藏省令第一號ヲ以テ追加)
- 一五厘 同

◎登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムル件

朕登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ納ムヘキ手数料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得但其種目ハ主務大臣之ヲ定ム

本令明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

◎同上貼付方

明治二十四年^{十二}月^{十二} 勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼用シ署名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印スヘシ

◎登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目

明治二十四年^{十二}月^{十二} 勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目左ノ如シ

- 一 煙草營業鑑札料及仕入出賣鑑札料
- 二 菓子營業鑑札料及仕入出賣鑑札料
- 三 藥賣營業鑑札料
- 四 以上各種鑑札再渡手数料
- 五 銃獵免狀再渡手数料
- 六 牛馬賣買鑑札再渡手数料
- 七 土地臺帳謄本手数料

◎同上

明治二十五年四月一日ヨリ左ノ種目ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

- 獸醫免許手数料 同書換手数料
- 蹄鐵工免許手数料 同書換手数料
- 特許、登録意匠、登録商標ニ關スル書類謄本手数料 同書換手数料
- 同圖面調製手数料

◎同上

明治二十五年四月一日ヨリ左ノ種目ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

- 醫術開業免狀手数料 醫術開業免狀書換手数料
- 藥劑師免狀手数料 藥劑師免狀書換手数料
- 藥品其他檢査手数料 藥品其他再檢査手数料
- 版權登録料 版權免許料 (舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タルモノニ係ル)

版權登録證再度下付手数料 版權免許證明書下付手数料

右種目ノ内版權登録料ニ限リ先ツ版權登録願書ノミチ差出シ庶務局ノ通知ヲ得タル後更ニ其願書ニ登記印紙ヲ貼用シテ差出スコトヲ得

◎同上

明治二十四年^{十二}勅令第二百四十五號ニ依リ本年四月一日ヨリ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ
手数料種目左ノ如シ

學校教員學力試驗手数料 學校教員免許狀授與手数料

◎右手数料納付並ニ貼付方

本年^三文部省令四號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルニハ學校教員學力試驗手数料
ニ係ルモノハ地方廳ニ於テ願書ノ查閱ヲ受ケタル後其願書ニ學校教員免許狀授與手数料
ニ係ルモノハ免許狀受領ノトキ其受領書ニ印紙ヲ貼付シ消印スヘシ

◎同上貼付方

明治二十四年^{十二}勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキハ其金
額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼用シ署名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ
彩紋トニ掛ケ消印スヘシ

◎同上種目

海員技術試驗手数料 海員免狀手数料 水先免狀手数料

◎賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼付方

賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼付方ハ願書ニ印紙ヲ貼付セス鑑札下付ノ際印紙ヲ貼付シ
タル鑑札領收證ヲ出サシムヘシ

◎証券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用ス
ヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スハ
シ但當預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

- 一 委任狀 印稅五厘
- 一 金高記載ナキ約定證文 同 五厘
- 一 遺物證文 同 壹錢
- 一 跡式證文 同 壹錢
- 一 讓與證文 同 壹錢
- 一 期限ヲ定メサル預リ金證文 同 壹錢
- 一 耕地小作證文 同 壹錢
- 一 雇人請合狀 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹錢

- 一 地所預り證文 同 壹錢
- 一 家屋預り證文 同 壹錢
- 一 諸物品切手 同 壹錢
- 一 借地 同 壹錢
- 一 借家證文 同 壹錢
- 一 賣買仕切書 同 壹錢
- 一 保險證文 同 壹錢
- 一 諸會社株券 同 壹錢
- 一 送金手形 同 壹錢
- 一 金 錢 通帳 同 壹錢
- 一 諸物品通帳 同 壹錢
- 一 金 錢 判取帳 同 壹錢
- 一 諸物品判取帳 同 壹錢
- 一 結社約定書 同 壹錢

四〇〇

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一 營業ニ關スル送狀 印稅壹錢

一 營業ニ關スル請取書 同 壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

- 一 金錢借用證文 印稅壹錢
- 二 地所賣買證文 同 貳錢
- 一 金高記載アル諸物品預り證文 同 四錢
- 一 金高記載アル諸物品借用證文 同 六錢
- 二 諸物品賣買證文 同 八錢
- 一 金錢定期預り證文 同 拾壹錢
- 一 金高記載アル諸般ノ契約證書 同 拾四錢
- 一 金高壹圓以上貳拾圓未滿 同 貳拾錢
- 一 金高貳拾圓以上五拾圓未滿 同 貳拾六錢
- 一 金高五拾圓以上百圓未滿 同 三拾貳錢
- 一 金高百圓以上百五拾圓未滿 同 三拾貳錢
- 一 金高百五拾圓以上貳百圓未滿 同 三拾貳錢
- 一 金高貳百圓以上三百圓未滿 同 三拾貳錢
- 一 金高三百圓以上四百圓未滿 同 三拾貳錢
- 一 金高四百圓以上六百圓未滿 同 三拾貳錢
- 一 金高六百圓以上八百圓未滿 同 三拾貳錢
- 一 金高八百圓以上千圓未滿 同 三拾貳錢

四〇一

四〇二

金高千百圓以上千四百圓未滿 同 三拾八錢
 金高千四百圓以上千七百圓未滿 同 四拾四錢
 金高千七百圓以上貳千圓未滿 同 五拾錢
 金高貳千圓以上貳千五百圓未滿 同 六拾錢
 金高貳千五百圓以上三千圓未滿 同 七拾錢
 金高三千圓以上三千五百圓未滿 同 八拾錢
 金高三千五百圓以上四千圓未滿 同 九拾錢
 金高四千圓以上 同 壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 金高百圓未滿 印稅四錢

一 金錢當座預リ證文 印稅壹錢

二 質物預リ證
 金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅貳錢

金高貳拾圓以上 同 貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 金高百圓未滿 印稅貳錢
 金高百圓以上 同 四錢

二 爲替手形

一 荷爲替手形

二 約束手形

金高五拾圓未滿 印稅壹錢
 金高五拾圓以上百圓未滿 同 貳錢
 金高百圓以上二百圓未滿 同 四錢
 金高貳百圓以上五百圓未滿 同 八錢
 金高五百圓以上千圓未滿 同 拾五錢
 金高千圓以上貳千圓未滿 同 貳拾五錢
 金高貳千圓以上 同 五拾錢

第三條 前條ニ掲グル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラヌ稅率ニ應
 シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ
 民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ
 證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印ス
 ヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル職員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一(國庫金取扱所)又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一(國庫金取扱所)又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ(國庫金取扱所)又ハ爲換方ヨリ差出ス證書

一諸納金ニ付(國庫金取扱所)又ハ爲換方ヨリ納人ニ差出ス請取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

一切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受タヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ照稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ料科又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サズ又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ料科又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦全シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル料科罰金ノ半額ニ相當スル料科又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

●印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ニ依リ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ

證券印紙 手形用紙 煙草印紙 訴訟用印紙 賣藥印紙 登記印紙

第二條 各府縣ニ左ノ印紙類賣捌人ヲ置ク

元賣捌人

府縣廳ヨリ印紙類ヲ拂受ケ之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノトス

賣捌人

元賣捌人ヨリ印紙類ヲ買受ケ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痕又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者
二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者
三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ府縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第五條 煙草營業人若ハ其家族又ハ全居ノ者ニハ煙草印紙、賣藥營業者請賣者行商者若

ハ其家族又ハ全居ノ者ニハ賣藥印紙ノ元賣捌及ヒ賣捌ヲ許可セス

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七以内ノ割引ヲ許可セス

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ

印紙類ノ賣下代金一回貳千圓以上ハ公債證書ヲ抵當ト爲シ六箇月以内ノ延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙額面ニ對シ百分ノ十以内ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得

但交換印紙ハ拾錢以上取纏メタルモノニ限ル

一 印紙損傷又ハ汚染シタルトキ
一 印紙不用ニ歸シタルトキ

第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其効ヲ失フモノトス
一 恩給若ハ扶助料ヲ受クル者其權利消滅若ハ停止セラレタルトキ
一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス
第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置並ニ第六條第八條ノ割引歩合其他此規則ニ關スル施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附 則

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ル量リ大藏大臣ノ認可ヲ經テ明治二十四年一月一日ヨリ漸次之ヲ施行スヘシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ハラス明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第二十一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ之ヲ施行セス

●印紙類賣下賣捌規則施行細則

第一條 元賣捌人ハ本店ヲ府縣廳所在ノ地ニ置キ各間稅分署所轄内ニ支店又ハ代理店ヲ設クヘシ

賣捌人ハ各間稅分署所轄内チ一區トシ其區内ノ地勢商業等ノ實況ニ應シ府縣知事適宜其人員ヲ定ムヘシ

第二條 印紙類ハ額面ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下ケ又ハ賣渡スモノトス

一 間稅署ヨリ元賣捌人 登記印紙 百分ノ六

ニ 賣下クルトキ 其他ノ印紙 百分ノ七

一元賣捌人ヨリ賣捌人 登記印紙 百分ノ四

ニ 賣渡ストキ 其他ノ印紙 百分ノ五

第三條 規則第八條ノ割引歩合ハ額面ニ對シテ左ノ如シ

一 賣捌人ヨリ元賣捌人 登記印紙 百分ノ九

ニ 請求スルトキ 其他ノ印紙 百分ノ十

一元賣捌人ヨリ間稅署 登記印紙 百分ノ八

ニ 請求スルトキ 其他ノ印紙 百分ノ九

印紙類ノ交換又ハ買戻ヲ請求セントスルトキハ賣捌人ハ元賣捌人ニ間稅署ニ申出ヘシ

第四條 規則第七條ノ公債證書ハ有利息ノモノニ限リ其抵當價格ハ明治二十三年勅令第四號第三條ニ依ル

第五條 免許ヲ得タル元賣捌人ハ間稅署ヨリ賣捌人ハ間稅分署ヨリ各免許賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

各賣捌人ノ改名轉居等ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ其訂正ヲ請フヘシ

廢業シタルトキハ標札ヲ返納スヘシ

第六條 規則第九條ノ場合ニ於テハ總テ廢業ノ取扱ニ依ルヘシ

第七條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ印紙類受拂帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員

數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ但賣捌人ニ於テ煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌キタルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

附則

第八條 印紙類賣下賣捌規則施行ノ前日ニ現在スル印紙類賣捌人ハ更ニ願出ツルヲ要セズ將來該規則ニ從ヒ繼續賣捌ヲ爲スコトヲ得

●特許條例

第一條 新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得ザルモノトス

一 飲食物嗜好物 二 醫藥並其調合法 三 特許出願以前公ニ用キラレタルモノ但

試験ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニアラス

第三條 特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スルモノアルハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登録シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種トナシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認めタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタ

ル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スルアルヘシ
前項ノ場ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノト
ス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其許特證主ニ
協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ
特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得ル場合ニ於
テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコ
トヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬
ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ
屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタメ發明ト雖モ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

- 一 新規又ハ有益ナラザリシコトヲ發見セラレタルモノ
- 二 第二條ニ該ルコトヲ
發見セラレタルモノ
- 三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セ
ザリシコトヲ發見セラレタルモノ
- 四 發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意
ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條 特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキ

ハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコ
トヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘ
シ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人ノ特
許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明
ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ
審査セシ其審定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルト
キハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ルコトヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スル
コトヲ得

第十六條 特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞着スルコトヲ發見シタルトキハ其權
利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル
爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スル片ハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條 特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受ケヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律 其効ナキモノトス

第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

- 一 特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セザルトキ
- 二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ
- 三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條 特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願ス

ルコトヲ得

第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許ヲ出願スルトキ 一發明ニ每金五圓
- 二 特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ 一發明毎ニ金三圓
- 三 特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ金壹圓
- 四 特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ 一發明毎ニ金五圓
- 五 審判ヲ請求スルトキ 一事件毎金七圓

第三十一條 特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納

一 五年ノ特許金廿圓 二 十年ノ特許金三十五圓 三 十五年ノ特許金四十圓
 第三十二條 特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ
 其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求ス
 ルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ
 第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り偽造品ヲ使
 用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ
 重禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣
 シタル者又ハ情ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰則項ニ同
 シ

第三十七條 前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌
 キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第三十八條 詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記
 若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知りテ其物品ヲ受託販賣シ

タル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販
 賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告
 訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辨セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ
 申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判
 所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年^四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣
 特許條例ニ依テ受ゲタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アルモノト
 ス專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

●特許條例施行細則

第一章 總則

第一條 凡ソ特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通ヲ作り之ニ差出ノ年月日及ヒ差出人

ノ氏名身分職業及ヒ住所ヲ記載シ明細書及ヒ圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ

審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辨書及ヒ訂正書ニハ正本ノ外關係人又ハ對手人ノ員數ニ應ジ副本ヲ添フヘシ

第二條 書類ハ字體ヲ明瞭ニ認メ文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除又ハ欄外ノ記入アルトキハ之ニ捺印スヘシ

第三條 書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルトキ若クハ之ニ關シテ照會ヲ要スルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正改造若クハ回答ヲサシムヘシ

第四條 差出人ニ於テ書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ其訂正若クハ改造ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ出願要部ニ變更ヲ生スルトキ又ハ特許局長(又ハ審判長)ニ於テ其必要ヲ認メサルトキハ之ヲ許可セズ

第五條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辨書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其訂正書ニ關係人又ハ對手人ニ送付スヘシ

第六條 已ムヲ得サル事故ノ爲メニ此細則ニ定メタル期限内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲シ難キトキハ其事由ヲ記載シ口頭審判ノ期日ニ係ルトキハ對手人ノ連署ヲ以テ期限内

ニ延期請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ相當ト認メタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ六十日以内ニ於テ更ニ期限ヲ定メ之ヲ差出人及ヒ關係人若クハ對手人ニ通知スヘシ

第七條 出願ハ此細則ニ定メタル期限又ハ特許局長(又ハ審判長)ノ定メタル期限内ニ成規若クハ指定ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ其出願ヲ無効トス

審判請求書、始末書、延期請求書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辨書及ヒ訂正書ハ前項ノ期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第八條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辨書ニハ主張ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第九條 書類、圖面、雛形及ヒ見本ハ證據物トシテ差出シタルモノ、外其下戻ヲ求ムルコトヲ得ス

第十條 出願人、請求人、關係人又ハ對一人ニ於テ代人ヲ使用スルトキハ委任狀ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ

代人ヲ不適當ト認メルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ農商務大臣ノ認可ヲ經更ニ代人ヲ選定セシムルコトヲ得

第十一條 特許年限ノ變更ハ特許ヲ與ヘタル後ニ於テ之ヲ特サス

第十二條 特許ノ登錄、改訂、取消、無効及ヒ削除其他特許ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 特許出願

第十三條 特許願書ハ第一號乃至第三號書式ニ從ヒ之ヲ作リ特許條例第三十條第一號ノ手数料全額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントスルトキハ特許願書ニ其旨ヲ附記シ、特許條例第八條ノ改良發明ニ係ルトキハ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ得ル能ハサルキハ其事由書ヲ添フヘシ

第十五條 特許願書ト同時ニ明細書又ハ圖面ヲ差出シ難キトキハ先ツ願書ノミヲ差出シ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

願書ニ後レテ明細書又ハ圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第十六條 特許願書及ヒ明細書、圖面ノ完備シタトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第十七條 特許願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントスル者ハ特許原簿登錄以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登錄ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章 明細書、圖面雛形及ヒ見本

第十八條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 發明ノ名稱 發明ノ性質及ヒ目的ニ從ヒ其種類ヲ表示スルニ足ルヘキ普通ノ名稱ヲ附スルヲ要ス
- 二 發明ノ性質及ヒ目的ノ要領 發明ノ構成作用及ヒ結果ヲ簡單ニ説明スルヲ要ス
- 三 圖面アルトキハ其容解 圖面ノ位置、視點及ヒ符號ヲ以テ示シタル部分ヲ明記スルヲ要ス
- 四 發明ノ詳細ナル説明 普通ノ知能ヲ以テ發明ヲ實施スルニ妨ケナカシムル爲メ發明及ヒ其實施ニ必要ナル事項ヲ詳細ニ圖面アルトキハ之ニ對照シテ證明シ併セテ請求區域ニ用ニヘキ文字ノ意義ヲ明確ニスルヲ要ス
- 五 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ關係 原發明ト改良發明トノ區別、二者結合ノ要點及ヒ二者相須ヲ生スヘキ作用ヲ明確ニ記載スルヲ要ス
- 六 特許ノ請求區域 發明ヲ構成スルニ關シテハカテサル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第十九條 明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ左ノ場合ニ限ルヘシ

- 一 特許權利ノ範圍ヲ明ホスル爲メ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ各別ニ記載スルトキ
- 二 特許權利ノ存スル所ヲ明確ナラシムル爲メ同一發明又ハ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ數様ニ記載スルトキ

第二十條 圖面ニハ發明ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ト改良發明トノ關係ヲ示スヘシ

第二十一條 雛形及ヒ見本ハ發明ニ必要ナル部分ノミニ付キ金屬又ハ木材等ヲ用ヒテ堅牢ニ之ヲ造リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺以内トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ

差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ
但特許出願ノ發明、物質ニ係ルトキ又ハ特許局長ノ認可ヲ經若クハ特ニ徵收シタル場
合ハ此限ニアラス

第二十二條 特許證主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其特許ノ雛形又ハ見本ヲ差
出スヘシ

第二十三條 雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知
スヘシ差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲナサ、ルトキハ特許局長ハ適宜
之ヲ處分スヘシ

雛形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第二十四條 審査ハ左ニ記載スル願書ノ外發明ノ種類ニ依リ願書ノ願號ニ從テ之ヲ着手
スヘシ

一 特許條例第七條ニ該當スル特許願書 二 同條例第二十六條ノ改訂願書 三
同條例第二十七條ノ削除願書

第二十五條 左ニ記載スルモノハ新規有益ノ發明トナスコトヲ得ス

一 發明以前ニ知ラレタルモノ 二 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ 但特
許ニ依リ公ニ用ヒラレタルモノハ新規ナルコトヲ妨ケス 三 發明ノ目的ニ於テ新
ナル好結果ヲ生シ得ヘカラサルモノ

第二十六條 左ニ記載スル出願ハ其發明、新規有益ナルモ特許ヲ與フヘカラサルモノト
ス

一 特許條例第二條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノト認ムル出願 二 特許條例

第十條第三號又ハ第四號ノ事實アルモノト認ムル出願

第二十七條 改良發明トシテ特許ヲ與フルハ特許發明ノ請求區域ヲ利用シテ更ニ發明ヲ
加ヘ同一目的ニ於テ好果ヲ生スヘキモノニ限ル

第二十八條 審査上發明ノ雛形若クハ見本ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通
知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ之ヲ差出サシムヘシ

第二十九條 審査上發明ノ試験ヲ要トスルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ出願人ヲ
シテ其試験ヲサシムルコトヲ得ス

第三十條 特許ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 願書ノ願號
- 二 發明ノ名稱
- 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ
住所
- 四 特許請求ノ要領再査定ニ係ルルハ不服理由ノ要領
- 五 拒絕ノ理由
明細書ニ對照シ正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スヘシ若シ第十九條ニ依リ請
求區域ヲ二項已上ニ分載シタルトキハ各項ニ付キ別々ニ其理由ヲ記載スルヲ要ス
- 六 再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辨明スルヲ要ス
- 七 査定主文

第三十一條 再査定ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査

定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 發明ノ名稱
- 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 不服ノ要旨
- 五 事實上ノ辨論
- 六 事實上主張ノ説明
- 七 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒスルニ止ムルヲ要ス
- 八 年月日

第三十二條 不服理由書中拒絕ノ理由ヲ反駁セス又ハ單ニ明細書ニ記載セサル事項ニ基キ不服ヲ申立ツルトキハ不服理由書ヲ差出サ、ルモノト見做スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其事由ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十三條 不服理由書ニ對シ初査定書ニ示シタル理由ニ依ラス更ニ他ノ理由ニ依リ拒絕査定ヲナストキハ其査定ヲ以テ初査定トシ前査定ヲ取消スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其事由ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十四條 特許條例第十五條ニ依リ審判ヲ請求シタル場合ニ於テ拒絕ノ理由ヲ不當ナリトスル審決アルトキハ特許局長ハ更ニ審査ノ手續ヲナスヘシ

前項ニ依リ審査ヲナストキハ再ヒ同一ノ理由ヲ以テ其特許ヲ拒絕スル査定ヲナスコトヲ得ス

第五章 抵觸

第三十五條 發明ノ抵觸ハ左ノ區別ニ依リ特許ノ請求區域ニ同一ノ項目アルトキニ限り生スルモノトス

但第十九條ニ依リ明細書ニ分載セサル部分及ヒ第六十條ニ依リ權利ノ放棄ト見做スヘキ部分ニ付テハ抵觸ヲ生セス

- 一 二箇以上ノ特許出願ニ係ル發明
- 二 特許出願ニ係ル發明及ヒ特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明
- 三 二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明
- 四 改訂出願ニ係ル發明及ヒ特許發明

第三十六條 抵觸ノ審査ハ抵觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ着手スヘシ

抵觸ノ審査結了己前審査官ニ於テ抵觸事項ノ發明ニアラサルコトヲ發見シタルトキハ抵觸ノ審査ヲ中止ス

第三十七條 特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ニシテ單ニ第十九條ニ依リ分載セサル爲メ他ノ特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ト抵觸セサル場合ニ於テハ出願人ニ其旨ヲ照會シテ明細書ヲ訂正スルト否トヲ回答セシムヘシ

第三十八條 抵觸ノ告知書ハ抵觸ノ部分ヲ明示シタル理由書ト共ニ之ヲ關係人ニ送付スヘシ

關係人前項ノ告知書及ヒ理由書ヲ受取リタルトキハ六十日以内ニ其發明ニ關スル始末書ヲ差出スヘシ此期限内ニ差出サルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ己前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ争フコトヲ得ス

第三十九條 關係人、始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ他ノ關係人ニ送付シ三

十日以内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

關係人ハ答辯書ヲ差出シタル後審査上關係人ノ一方又ハ双方ヲシテ尙ホ答辯ヲナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十條 發明ノ牴觸ヲ解除セントスル者ハ牴觸ノ審査結了己前ニ其牴觸ニ係ル特許又ハ願書ノ取消若クハ發明ノ牴觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其牴觸ヲ解除シ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四十一條 始末書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一 牴觸ノ番號 二 牴觸發明ノ名稱 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所 四 事實上ノ陳述 發明ヲ考案完成シタル事實、年月日及ヒ其發明ヲ

圖面、雛形又ハ見本ニ作リタル事實、年月日ヲ明確ニ記載スルヲ要ス 五 事實上主張ノ證明 六 差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印 七 年月日

第四十二條 牴觸ニ關スル答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一 牴觸ノ番號 二 牴觸發明ノ名稱 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所 四 答辯ノ要旨 五 事實上ノ辨論 六 事實上主張ノ證明又ハ對

手人ノ中出テタル證據方法ニ對スル陳述 七 差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印 八 年月日

第四十三條 牴觸ノ査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一 牴觸ノ番號 二 牴觸發明ノ名稱 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所 四 關係人ノ陳述ノ要領 五 査定ノ理由 正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スルヲ要ス 六 査定主文 七 年月日

第六章 審判 第四十四條 審判ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ請求書ヲ作り特許條例

第三十條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ再査定書又ハ牴觸査定書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス

一 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所 二 係爭事件ノ表示

三 請求ノ要旨 四 事實上若クハ法律上ノ辯論 五 事實上主張ノ證明 六 請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印 七 年月日

第四十五條 審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ノ對手人ニ送付シ三十日以内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

對手人答辯書ヲ差出シタル後尙ホ對手人ノ一方又ハ双方ヲシテ答辯ヲナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十六條 答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス

一 審判ノ番號 二 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所 三 係爭事件ノ表示 四 答辯ノ要旨 五 事實上若クハ法律上ノ辯論 六 事實

上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出テタル證據方法ニ對スル陳述 七 請求人若クハ被
請求人又ハ其代人ノ署名及ビ捺印 八 年月日

第四十七條 審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サントスルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申
出ツヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ審判長ハ其旨ヲ對手人ニ通知スヘシ
第四十八條 對手人答辯書ヲ差出シタル後審判ノ請求ヲ取消シタル者ハ審判入費ヲ負擔
スヘシ

但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ期限ニアラス

第四十九條 審判ハ書類及ビ口頭ノ二種トス

第五十條 口頭審判ハ請求人及ビ被請求人双方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要
ト認メタルトキハ公開シテ之ヲナス

第五十一條 口頭審判ヲナストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ請求人及ビ被請求人ニ通
知スヘシ

第五十二條 請求人若クハ被請求人成規又ハ指定ノ期限内ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ
辯論終結ト見做シ 第五十一條ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘審判ヲ
終結スルコトヲ得

第五十三條 審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ノ謄本ヲ作り之ニ局印ヲ捺シ請
求人及ビ被請求人ニ送附スヘシ

口頭判審ノ場合ニ於テハ尙ホ之ヲ言渡スヘキモノトス

第五十四條 審決書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス

一 審判ノ番號 二 請求人被請求人及ビ其代人ノ氏名身分職業及ビ住所 三

請求人及ビ被請求人ノ陳述ノ要領 四 審決ノ理由 明細書ニ對照シ査定書アル

トキハ其査定書ニ對照シテ適切ニ且ツ明確ニ記載スルヲ要ス 五 審決主文 六

審判ヲナシタル審判官ノ官氏名 七 年月日

第七章 特許

第五十五條 特許條例第四條ニ依リ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ
農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ特許料納付用紙ヲ添へ出願人ニ送付
スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金
額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面各二通ヲ添へ通知書ノ日附ヨリ六十日
以内ニ差出スヘシ

第五十六條 出願人特許料ヲ付納シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ其發明ヲ特許
原簿ニ登錄シ同時ニ其旨ヲ出願人ニ通知シテ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ
前項特許料ノ納付、執務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執
務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第五十七條 特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ付キ協議ヲナサシムヘシ

前項ノ協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認メタル報酬ノ種類、數額、方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ又特許原簿ノ登錄ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第五十八條 特許證ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ特許原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附トナス

第五十九條 特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日附及ヒ特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第六十條 特許證主第十九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノヲ分離シテ販賣シタルトキハ其部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第六十一條 特許ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ特許證主氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第八章 賣與、讓與、共有及ヒ書入

第六十二條 特許條例第二十二條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ第五號若クハ第六號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り特許條例第三十條第二號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登錄シ契約書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ特許證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第六十三條 賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ特許證ニ裏書ノ上之ヲ特許證主ニ返付スヘシ

第六十四條 共有ニ屬スル特許ヲ賣與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ其登錄ヲナサハルヘシ

第九章 再下付願

第六十五條 特許條例第二十五條ニ依ル再下付願書ハ第七號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第三十條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六十六條 第六十五條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル特許證ヲ下付スヘシ

第十章 改訂及削除願

第六十七條 特許條例第二十六條ニ依ル特許證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

- 一 特許權利ニ關係ナキ說明又ハ圖面ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキ
- 二 請求區域ノ意義ヲ變更スルコトナクシテ之ヲ明確ナラシムヘキ必要アルコトヲ發見シタル

トキ 三 過テ自己ノ發明ニ係レル範圍ヲ超過シテ特許權利ノ範圍トナシタルコト
 ナ發明シタルトキ 四 特許權利ノ範圍ヲ擴張スルコトナク一箇ノ特許證ヲ分離シ
 テ數箇ノ特許證トナスコトヲ必要トスルトキ
 第六十八條 改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第四號ノ手数料金
 額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書若クハ改訂圖面ヲ添へ現特許證及ヒ附屬
 ノ明細書、圖面ト共ニ差出スヘシ
 前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第五十五條及ヒ第五十六條ノ手續ニ依リ其旨
 ナ特許原簿ニ附記シ改訂特許證ヲ送付スヘシ
 第六十九條 改訂特許證ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス
 第七十條 特許條例第二十七條ニ依ル明細書ノ削除願ハ第十九條ニ從ヒ分載シタル請
 求區域ノ項目ヲ刪滅シ特許權利ノ範圍ヲ一部放棄セントスル場合ニ於テ之ヲナスコト
 ナ得ルモノトス
 第七十一條 削除願書ハ第十號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第四號ノ手数料金
 額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ特許證ヲ差出スヘシ
 前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ヲ附記シ特許證ニ裏書ノ上之
 ナ出願人ニ返付スヘシ
 書式 用紙美濃十三行
 二十五字詰

第一號特許願出ルトキ

特許願 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ
 一何々發明ノ名稱
 右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術(機械、製造品、合成物)ニシテ何年何月何日私(私共)ノ完成シタル發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

年月日

農商務大臣(尊)氏名殿

本籍(及現住所) 身分、職業

發明者

氏名印 二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

第二號 他人ノ特許發明ヲ改良シ特許願出ルトキ

特許願 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ捺印スヘシ
 一何々ノ改良原發明ノ名稱
 右ハ別紙明細書ニ記載スル通何某所有第何號特許證ノ何々原發明ノ發明ニ就キ私(私

共)ニ於テ改良ヲ加ヘ何年何月何日完成シタルモノニ有之特許條例ニ觸レサルモノト
確信候間何箇年ノ特許相受度特許證主ノ承諾書(特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハサルニ付
其事由書)ヲ添ヘ此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

發明者 氏 名 印

年 月 日

農商務大臣(爵)氏名殿

第三號 相續者ヨリ特許

ヲ願出ルトキ

特 許 願

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一何々 發明ノ名稱

ヲ掲クヘシ

右ハ何年何月何日亡何某ノ完成シタル發明ニ係リ私相續候處別紙明細書ニ記載スル通
ノ工術(機械、製造品、合成物)ニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許
相受度候此段相願候也

本籍(及現住所)

發明者 亡何某相續者

身分、職業

特許願人 氏 名 印

年 月 日

農商務大臣(爵)氏名殿

第四號 特許證

書式

第何號

特 許 證

本籍(及現住所)

身分、職業

何々(發明ノ名稱) 氏 名

本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ何年間特許ヲ與フルモ
ノ也

年 月 日

農商務大臣(爵)氏

名 印

農商務省 特許局長 氏 名 印

第五號 特許ノ賣與、讓與、共有又ハ

書入ノ登録ヲ請求スルトキ

特許賣與(讓與、共有又

ハ書入)登録請求書

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

二第號 特許證

一何々 發明ノ名稱

ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許ヲ別紙契約書之通賣與(讓與、共有、又ハ書入)候間登録相成度契約
書正副ニ通並ニ特許證相添此段請求候也

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日

特許證主

氏

名印

本籍(及現住所)

身分、職業

買受(讓受、共有)書入受

人氏

名印

農商務省特許局長氏名殿

第六號

書入中ノ特許ノ賣與、讓與共有又ハ書入ヲ登錄ヲ請求スルトキ

特許賣與(讓與、共有又ハ書入)登錄請求書

〔此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ〕

二何第號特許證

一何々發明ノ名稱

一發明者氏名

右私(私共)所有特許ハ何年何月何日附ノ契約書ニ依リ何某

本籍ヲモ

記ス可シ

ハ書入致置候處令

般別紙契約書ノ通賣與(讓與、共有又ハ書入)候間登錄候成度契約書正副二通並ニ特許

證相添此段請求候也

本籍(及現住所)

身分、職業

特許證主

氏

名印

年月日

本籍(及現住所)

身分、職業

買受(讓與、共有)書入受

人氏

名印

農商務省特許局長氏名殿

第七號

特許證ノ再下付

ヲ願出ルトキ

特許證再下付願

〔此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ〕

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱

一發明者氏名

右私(私共)所有特許證何々

事由ヲ記

ニ依リ毀損(亡失)候ニ付特許證再下付成度此段願

候也

本籍(及現住所)

身分、職業

特許證主

氏

名印

年月日

農商務大臣(爵)氏名殿

第八號

特許證ノ改訂

ヲ願出ルトキ

〔此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ〕

一第何號特許證

- 一 何々發明ノ名稱
- 二 發明者氏名

右私(私共)所有特許證附屬ノ明細書(圖面)中何々事由ヲ記ノ爲メ特許ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ發明ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂特許證下付成度別紙改訂明細書(改訂圖面)並ニ現特許證及ヒ附屬明細書(圖面)相添此段相願候也

年月日 農商務大臣(爵)氏名殿

第九號 改訂特許證書式
第何號 改訂特許證

何々(發明ノ名稱) 本籍(及現籍所) 氏 名 印

特許條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日何年間特許ヲ與ヘタル特許證ニ對シ本證附屬明細書(圖面)通改訂ヲ許可スルモノ也
年月日 農商務大臣(爵)氏 名 印
農商務省 氏 名 印
特許局長 氏 名 印

第十號 明細書ノ削除

明細書削除願

- 一 第何號特許證
- 二 何々發明者ノ名稱
- 一 發明者ノ名義

〔此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ〕

右(私)(私共)所有特許證附屬ノ明細書ニ於テ私(私共)(前記發明者)ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ請求區域中ニ記載シタルコトヲ發見候間明細書中特許請求區域第何項(第何頁何行目何ノ字ニ至ル若干字ヲ)削除致度此段願候也

本籍(及現住所) 氏 名 印
身分、職業
特許證主 氏 名 印
年月日 農商務大臣(爵)氏名殿

◎特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ム

特許條例意匠條例及商標條例ニ依リ特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ムルコト左ノ如シ
第一條 印刷書類拂下代價ハ明細書一部ニ付金貳錢 厘特許公報一部ニ付金拾五錢商標公報一部ニ付金貳錢五厘トス

- 第二條 書類ノ謄本又ハ特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求書ヲモノハ一枚ヲ以テ算ス
 - 第三條 圖面調製手数料ハ一枚ニ付金貳拾五錢以上金五圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル所ニ依ル
 - 第四條 印刷書類ノ拂下ヲ望ム者ハ買捌人東京市京橋區八官町十三番地彦根正三ニ就テ購入スヘシ
 - 第五條 書類ノ謄本又ハ特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求書ヲ差出スヘシ但圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖ニ明細書ヲ添ヘテ差出スヘシ尤モ審査用ノ爲メ既ニ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖並明細書ヲ差出シタルモノハ之ヲ添フルコト及ハス
 - 第六條 意匠條例第二十五條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其意匠登録證ノ番號及日附ヲ請求書ニ記載シテ差出スヘシ
 - 第七條 手数料ハ特許局長ノ通知ニ依リ相當ノ登記印紙ヲ納付書ニ貼用シ消印ノ上特許局ニ差出スヘシ
- ◎農商務省局ニテ登録セル特許意匠及商標登録方
- 本年九月法律第七十八號ヲ以テ登記法第一條ニ追加規定ノ農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ當省特許局ヨリ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ通知シテ之ヲ爲スヘキニ付本人ニ於テ其登記ヲ登記所ニ請求スルヲ要セス

◎意匠條例

- 第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模倣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ提出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得
- 第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス
 - 一 風俗ヲ害スヘキモノ
 - 二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ
- 第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ
- 第四條 意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス
- 第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス
- 第七條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス
- 第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ハ其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限

ニ在ラス

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケトスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ授出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條 意匠專用權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠專用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠專用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付キ出願スルコトヲ得

第十六條 登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但
其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲スヘシ

第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 意匠ノ登録ヲ出願スルトキ 一意匠ニ付物品一類毎ニ 金五拾錢 二 登録意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ 一意匠ニ付物品一類毎ニ 金三圓 三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ 金壹圓 四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ 一意匠ニ付物品一類毎ニ 金貳圓 五 審判ヲ請求スルトキ 一事件毎ニ 金七圓

第十九條 意匠登録證又ハ其改訂登録證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登録料ヲ納ムヘシ

- 一 三年ノ専用 金三圓 二 五年ノ専用 金五圓 三 七年ノ専用 金七圓
- 四 十年ノ専用 金拾圓

第二十條 登録意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録意匠ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録意匠ナルコトヲ知り之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ拾圓以

上罰以下ノ罰金ニ處ス

登録意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記若クハ類似ノ記標ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ没收シテ登録意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十五條 第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

◎意匠條例施行細則

第一章 總則

第一條 特許條例施行細則第一條乃至第十條ハ此細則ニ之ヲ適用ス

第二條 意匠專用年限ノ變更ハ意匠原簿ニ登録ノ後ニ於テ之ヲ許サス

第三條 意匠ノ登録、改訂、取消及ク無効其他意匠ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 登録出願

第四條 登録願書ハ第一號乃至第三號書式ニ依リ第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ一類毎ニ之ヲ作り意匠條例第十八條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第五條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登録ヲ受ケントスルトキハ登録願書ニ其旨ヲ附記スヘシ

第六條 登録願書及ヒ明細書、圖面、見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ付シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第七條 登録願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登録ヲ受ケントスル者ハ意匠原簿登録以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登録ノ後ハ係ルトキハ受理セズ

第三章 明細書、圖面、雛形及ヒ見本

第八條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作り圖面ニ通テ添フヘシ

一 意匠ノ名稱 意匠ノ性質及ヒ其意匠ヲ應用スル物品ノ種類ニ從ヒ普通ノ名稱ヲ

附スルヲ要ス 二 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱 第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ其物品ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス 三 意匠ノ詳細ナル説明 形狀ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部ノ形狀、模様ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部ノ圖樣位置、色彩ノ意匠ニ付テハ色彩ヲ施スヘキ圖樣色名及ヒ其配色ノ位置ヲ各々圖面ニ對照シテ説明シ其意匠故實ニ基ケルトキハ故實ノ概要ヲ記述シ併セテ請求區域ニ用ユヘキ文字ノ意義ヲ明確ニスルヲ要ス 四 專用權請求ヘ區域 意匠ヲ構成スニ缺クヘカラサル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第九條 明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ意匠專用權ノ範圍ヲ明示スル爲メ意匠構成スル新規ナル部分ヲ各別ニ記載スル場合ニ限ルヘシ

第十條 圖面ニハ意匠ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ 寫真ニ依テ其意匠ヲ示スコトヲ得ルトキハ臺紙ヲ附セサルモノニ限り圖面ニ代用スルコトヲ得

第十一條 雜形及ヒ見本ハ意匠ニ必要ナル部分ノミニ付キ之ヲ造リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺以内トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

但特許局長ノ認可ヲ經又ハ特ニ徵收シタル場合ハ此限ニアラス

第十二條 登錄意匠主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ偽メ其意匠ノ雜形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第十三條 雜形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ

差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲサソルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

雜形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第十四條 審査ハ意匠條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經過シタル後願書日附ノ順序ニ從ヒ日附相同シモノハ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ着手スヘシ

第十五條 左ニ記載スルモノハ新規ノ意匠トナスコトヲ得

- 一 意匠條例第二條第二號ニ該當スルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
- 二 公ヲ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレスト雖モ己ニ他人ニ於テ登錄ヲ出願シ其權利ヲ放棄シタル意匠ト同一若クハ之ニ類似スルモノ

第十六條 左ニ記載スル意匠ハ新規スルモ登録ヲ許スヘカラサルモノトス

- 一 皇室ノ御紋章ト同一又ハ之ニ類スルモノト認ムヘキ圖形ヲ使用シタル意匠
- 二 意匠條例第二條第一號ニ該當スル意匠
- 三 意匠條例第八條ニ該當スル登録出願ノ意匠ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ノ相同シキモノ
- 四 工業上ノ物品ニ應用セサル意匠
- 五 形狀模様若クハ色彩ヲ主トセサル意匠
- 六 商品ノ目印タルニ止マル意匠

第十七條 登録ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 意匠ノ名稱
- 三 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱
- 四 出願人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
- 五 登録請求ノ要領再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
- 六 拒絕ノ理由
- 七 明細書及ヒ雛形見本ニ對シテ適切ニ且明確ニ記載シ若シ第九條ニ依リ請求區域ヲ二項以上ニ分載シタルトキハ各項ニ付キ別々ニ其理由ヲ記述スルヲ要ス
- 八 再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辨明スルヲ要ス
- 九 査定主文
- 十 年月日

第十八條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 意匠ノ名稱
- 三 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱
- 四 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 五 不服ノ要旨
- 六 事實上ノ辨論
- 七 明細書ニ對照シ拒絕ノ理由ヲ反駁スルニ止ムルヲ要ス
- 八 事實上主張ノ證明
- 九 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 十 年月日

第十九條 登録ヲ許スヘシト認ムル意匠ト同一若クハ之ニ類似スル意匠ノ登録出願ニ對シ拒絕ノ査定ヲナシタルトキハ其拒絕ノ査定確定スルマテ一方ノ登録ノ査定ヲ中止スヘシ

第五章 審判

第二十一條 特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ意匠ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス

但審判請求書ニハ意匠條例第十八條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六章 登録

第二十二條 意匠條例第四條ニ依リ登録ヲ許スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登録料納付用紙ヲ添へ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第十九條ノ意匠料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面ニ通テ添へ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

第二十三條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以内ニ意匠登録證ヲ送付スヘシ

前項登録料ノ納付執務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第二十四條 意匠登録證ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ意匠原簿ノ日ヲ以テ其日附トナス

第二十五條 登錄意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ意匠登錄ノ四字意匠登錄證日附及ヒ專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第二十六條 登錄意匠主第九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノ分離シテ應用シタル物品ヲ販賣シタルトキハ其部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第二十七條 意匠ノ專用權ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ登錄意匠主氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第七章 賣與、讓與、共有及ヒ書入

第二十八條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ第五號若クハ第六號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り同條例第十八條第二號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ意匠登錄證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登錄シ契約書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ意匠登錄證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十九條 賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ意匠登錄證ヲ添ヘ差出スヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ意匠登錄證ニ裏書ノ上之ヲ登錄意匠主ニ返付スヘシ

第三十條 共有ニ屬スル意匠ノ專用權ヲ賣與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ其登錄ヲナササルヘシ

第八章 再下付願

第三十一條 意匠條例第十五條ニ依ル再下付願書ハ第七號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十八條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登錄印紙ヲ貼用スヘシ

第三十二條 第三十一條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル意匠登錄ヲ下付スヘシ

第九章 改訂願

第三十三條 意匠條例第十六條ニ依ル意匠登錄證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

- 一 明細書ノ説明ト圖面ノ符合セサルコトヲ發見シタルトキ
- 二 請求區域ノ意義ヲ變更スルコトナクシテ之ヲ明確ナラシムルハキ必要アルコトヲ發見シタルトキ
- 三 過テ自己ノ案出ニ係レル範圍ヲ超過シテ意匠專用權ノ範圍トナシタルコトヲ發見シタルトキ

第三十四條 條改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作り意匠條例第十八條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ改訂明細書一通若クハ改訂圖面二通添ヘ現意匠登錄シ證及ヒ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十二條及ヒ第二十三條ノ手續ニ依リ其旨ヲ意匠原簿ニ附記シ改訂意匠登錄證ヲ送付スヘシ

第三十五條 改訂意匠登錄證ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナ

第十章 物品類別

第三十六條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 衣服

衣、裳、外套、襯衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類 頭飾、服飾、帽子

櫛、簪、根掛、胸飾、胸環、指環、釦鈕、帽子等

第三類 時計及ヒ其附屬品

袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、杖及ヒ履物類

傘、杖、下駄、草履、靴等

第五類 携帶品

煙具、扇、懷中物、手提等

第六類 家具

棚、簞笥、机、椅子、卓子、寢臺等

第七類 敷物

段通、油團、花筵其他各種ノ敷物

第八類 煖爐及ヒ其附屬品

火鉢、煖爐、煙草盆、炭取、石炭入、火箸等
第九類 點燈器

行燈、燭臺、手燭、燈籠、「ランプ」、瓦斯燈、電氣燈等

第十類 建築附屬品

障、戸、扉、柵、欄間、欄干等

第十一類 織物及ヒ他類ニ属セサル織物製品

絹、綿、麻、毛織物、服紗、手巾、窓掛、卓被等

第十二類 他類ニ属セサル編物、組物

「レレス」、打紐、飾縁等

第十三類 他類ニ属セサル漆器(假漆塗、油漆塗等モ之ニ属ス)

飲食器、手箱、香合等

第十四類 他類ニ属セサル陶器(煉火石、瓦等モ之ニ属ス)

飲食器、花瓶、香爐等

第十五類 他類ニ属セサル玻璃

飲食器、紋様玻璃等

第十六類 他類ニ属セサル七寶

花瓶、香爐、手箱、香合等

第十七類 他類ニ属セサル金属製品

貴金屬、賤金屬及合金ノ製品

第十八類 他類ニ属セサル石材製品

寶石其他石類ノ製品

第十九類 他類ニ属セサル木、竹、牙、角類製品

盆、箱、花臺、籃、籠、籠、柱脚、茶托、箸、硯屏、墨臺、筆筒等

第二十類 紙及ヒ他類ニ属セサル紙製品

紋紙、擬草紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙箋、書簡筒、文匣、一閑帳等

第二十一類 皮革及ヒ他類ニ属セサル皮革製品

紋革、文匣、馬具等

第二十二類 他類ニ属セサル物品

用紙美濃十三行書式二十五字詰

第一號 意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

〔此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ〕

一何々 意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫真)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)ノ案出候モノニ有之意匠條例

ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)身分、職業

年月日

案出者 氏 名 印

二人以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

又ハ所在地

登録願人 會社(組合)名 社印

社(組)長又ハ重役

氏 名 印

會社又ハ組合ヨリ差出ス書面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

農商務大臣(爵)氏名殿

第二號 相續者ヨリ意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

〔此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ〕

一何々 意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ亡何某ノ案出ニ係リ私相續候處別紙明細書及圖面(寫真)ノ通ノ意匠ニシテ意匠例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

案出者亡何某相續者

身分、職業

登録願人 氏 名 印

四五五

年月日

農商務大臣(爵)氏名殿

第三號 他人ノ案出ニ係ル意匠
登録ヲ願出ルトキ

一何々 意匠ノ名稱
〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

右ハ別紙明細書及圖面(寫真)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共、當會社、當組合)ヨリ何某
ニ託シ案出セシメタルモノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ
登錄相受度此段願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登錄願人 氏 名 印

年月日

農商務大臣(爵)氏名殿

第四號 意匠登録
證書式

第何號

意匠登録證

本籍(及現住所)

身分、職業

何々(意匠ノ名) 氏 名

意匠條例ニ據リ前記ノ意匠ヲ登録シ本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ右記名ノ者ニ何
年間專用權ヲ與フルモノ也

年月日

農商務大臣(爵)氏 名 印
農商務省 氏 名 印
特許局長 氏 名 印

第五號 登錄意匠ノ賣與、讓與共有又ハ
書入ノ登録ヲ請求スルトキ

一第何號意匠登録證
又ハ書入(登録請求書)

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一何々 登錄意匠ノ名稱
稱ヲ掲クヘシ

一案出者氏名

右私(私共)所有登録意匠ヲ別紙契約書ノ通賣與(讓與、共有又ハ書入)候間登録相成度
契約書正副二通並ニ意匠登録證相添此段請求候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登錄意匠主 氏 名 印

年月日

本籍(及現住所)

身分、職業

買受(讓受、共有)人 氏 名 印
買受(書入受)人 氏 名 印

農商務省特許局長氏名殿

四五八

第六號 書入中ノ登録意匠ノ賣與讓與共
有又ハ書入ノ登録ヲ請求スル片

登録意匠賣與(讓與共有)
又ハ書入(登録請求書)

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

- 一 第何號登録意匠證
- 一 何々 登録意匠ノ名
稱ヲ掲クヘシ
- 一 案出者氏名

右私(私共)所有登録意匠ハ何年何月何日附ノ契約書ニ依リ何某本籍ヲモ處今般別紙契約書之通賣與(讓與、共有又ハ書入)候間登録相成度契約書正副二通並ニ
意匠登録相添此段請求候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登録意匠主 氏 名 印

本籍(及現住所)

身分、職業

買受(讓受、共有)人 氏 名 印

買受(書入受)

農商務省特許局長氏名殿

第七號 意匠登録證ノ再下
付ヲ願出ルトキ

意匠登録證再下付願

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

- 一 第何號登録意匠證
- 一 何々 登録意匠ノ名
稱ヲ掲クヘシ
- 一 案出者氏名

右私(私共)所有意匠登録證何々事由ヲ記ニ依リ毀損(亡失)候ニ付意匠登録證再下付相
成度此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登録證主 氏 名 印

年 月 日

農商務大臣(爵)氏名殿

第八號 意匠登録證ノ改
訂ヲ願出ルトキ

意匠登録證改訂願

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

- 一 第何號意匠登録證
- 一 何々 意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ
- 一 案出者氏名

右私(私共)所有意匠登録證附屬ノ明細書(圖面又ハ寫真)中何々事由ヲ記ノ爲メ登録ノ
効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤モ之カ爲メ意匠要部ニ變更ヲ生スル義無之

四五九

候間改訂意匠登録證下付相成度別紙改訂明細書(改訂圖面又ハ寫真)並ニ現意匠登録證及附屬明細書(圖面又ハ寫真)相添此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登錄意匠主 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

年月日

第九號 改訂意匠登錄證書式

第何號

改訂意匠登錄證

本籍(及現住所)

身分、職業

氏 名

何々(意匠ノ名稱)

意匠條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日何年間ノ專用權ヲ與ヘタル登錄意匠ニ對シ本證附屬明細書(圖面)ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年月日

農商務大臣(爵)氏 名 印

農商務省 特許局長 氏 名 印

●商標條例

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲クル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

- 一 風俗ヲ害スヘキモノ
- 二 商品普通ノ名稱若クハ内外國ノ旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ
- 三 他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 商標ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登録商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登録ノ効ヲ失フモノトス
一 登録商標主相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ
二 登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間に中止シタルトキ
三 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ
四 登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量産地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ
五 登録商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條 登録商標主其専用年限満期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願スルコトヲ得

第十五條 登録商標主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但
其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
一 商標ノ登録ヲ出願スルトキ 一商標ニ付商品一類毎ニ 金壹圓 二 登録商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ 一商標ニ付商品一類毎ニ 金三圓
三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ 金壹圓 四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ 一商標ニ付商品一類毎ニ 金貳圓 五 審判ヲ請求スルトキ 一事
件毎ニ 金七圓

第十八條 商標登録證又ハ其改訂登録證又ハ其續用登録ヲ受ケタル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登録料金廿圓 賣與讓與又ハ共有商品一類毎ニ 金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求若アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 第二十一條 登錄商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ
- 第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス
- 第二十三條 他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重罰禁又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ
- 第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム
- 第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得
- 第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

●商標條例施行細則

第一章 總則

第一條 特許條例施行細則第一條乃至第十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

第二條 商標ノ登錄、改訂、取消及ヒ無効其他商標ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ商標公報ニ公告スヘシ

第二章 登錄出願

第三條 登錄願書ハ第一號書式ニ依リ第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ一類毎ニ之ヲ作り商標條例第十七條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 二人已上ノ出願人連名ニテ登錄ヲ受ケントスルトキハ登錄願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證スル事由書ヲ添フヘシ

第五條 登錄願書及ヒ明細書見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第六條 登錄願書ヲ差出シタル後他人ト連名ニテ登錄ヲ受ケントスル者ハ其旨ヲ記載シタル願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證スル事由書ヲ添ヘ商標原簿登錄已前ニ之ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登錄ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章 明細書見本及ヒ印版

第七條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

但明細書ニハ商標ノ見本二箇ヲ添ヘ一箇ハ明細書ノ首部ニ貼付シテ其貼目ニ捺印スヘシ

一 商標全部構造ノ説明 商標ノ見本ニ付圖樣文字ノ形狀、位置、書體、方向、裝飾

附記等ヲ説明スルヲ要ス 二 商標ノ要部 商標ノ見本ニ付キ特別著明ノ外觀ノ部分ノミヲ記載スルヲ要ス 三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱 第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ其商品ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス 四 商標使用ノ方法 商標ヲ實地商品ニ使用スル方法ヲ説明スルヲ要ス

第八條 商標ノ見本ハ實際使用スヘキ商標ヲ用ユヘシ

前項ニ依リ難キトキハ模寫若クハ縮寫シタルモノヲ以テ見本トナスコトヲ得

第九條 商標ノ印版ハ版面ノ廣サ曲尺方一寸八分以内厚サ曲尺七分六厘トシ木版又ハ鉛版ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

前項ノ制限ニ依リ難キトキハ版面ノ廣サニ限り長サ曲尺七寸以内幅五寸以内ニ於テ之ヲ造ルコトヲ得

第十條 商標ノ印版ハ見本全部ノ構造ヲ悉ク一箇ノ版面ニ彫刻シ彩色等ノ爲メ之ヲ分割セサルヲ要ス時日ヲ經テ版面ニ反リテ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

第十一條 商標印版ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ 差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サ、ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

印版ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第十二條 審査ハ商標條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經過シタル後願書日附ノ順序ニ從ヒ日附相同シキモノハ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ着手スヘシ

第十三條 左ニ記載スル圖形、字體又ハ其結合ハ商標ノ要部トナスヘキ特別著明ノ外觀ナキモノトス

- 一 商品ノ品位、品質若クハ効能ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ
- 二 商品ノ名稱、形狀又ハ其原料ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ
- 三 普通ニ使用セラル、地名、姓氏、人名、家號、會社名ノミヲ普通ノ書體ニ依リ記セモノ
- 四 地紋樣ノ圖形ノミヲ以テ成ルモノ
- 五 現ニ同業者間ニ普通ニ用ヒラレ又ハ商業上慣用セラル、目印記載ノミヲ以テ成ルモノ

第十四條 左ニ記載スル商標ハ特別著明ノ要部ヲ具フルモ登録ヲ許スヘカラサルモノトス

- 一 皇室ノ御紋章ト同一又ハ之ニ類似スルモノト認ムル商標
- 二 商標條例第二條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル商標
- 三 商標條例第八條ニ該當スル登録出願ノ商標ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ノ相同シキモノ

第十五條 同一商品ニ使用セントスル二箇以上ノ商標ニシテ左ニ記載スル場合ノ一ニ該當スルトキハ互ニ類似シタルモノトス

- 一 離隔上ノ觀察ニ於テ差異ナキトキ
- 二 商標上ヨリ生スヘキ自然ノ稱呼同一ナルカ又ハ相紛ハシキトキ

第十六條 登錄ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱
- 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 商標全體ノ關係、再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
- 五 拒絕ノ理由
- 六 明細書及ヒ見本ニ對照シ適切ニ且明確ニ記載シ再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辯明スルヲ要ス
- 七 年、月、日

第十七條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱
- 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 不服ノ要旨
- 五 事實上ノ辯論
- 六 明細書及ヒ見本ニ對照シ絶、拒ノ理由ヲ反駁スルニ止ムルヲ要ス
- 七 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 八 年、月、日

第十八條 登錄ヲ許スヘシト認ムル商標ト同一若クハ之ル類似スル商標ノ登標出願ニ對シ拒絕ノ査定ヲナシタルトキハ其拒絕ノ査定確定スルマテ一方ノ登錄ヲ査定ノ中止スヘシ

第五章 審判

第十九條 特許條例施行細則第三十二條乃至第三十四條ハ商標ノ審査ニ關シテモ之ヲ適用ス

第二十條

特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ商標ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス

但審判請求書ニハ商標條例第十七條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六章 登錄

第二十一條 商標條例第四條ニ依リ登錄ヲ許スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登錄料納付用紙ヲ添へ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登錄料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登錄料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通及ヒ商標ノ印版一箇ヲ添へ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

第二十二條 出願人登錄料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登錄シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以内ニ商標證ヲ送付スヘシ
前項登錄料ノ納付執務時間ノ最後一時間若クハ其已後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタモノト見做スヘシ

第二十三條 商標登錄證ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製シ商標原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附トナス

第二十四條 商標ノ專用權ヲ相續シタルトキハ其相續人ヨリ登錄商標主其商標ノ使用ヲ

廢止シタルトキ氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速カニ其旨ヲ届出ツヘシ

四七〇

第七章 賣與、讓與及ヒ共有

第二十五條 商標條例第十二條ニ依リ賣與（讓與又ハ共有ノ登録ヲ受ケントスル者ハ第三號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り同條例第十七條第二號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ商標登録證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登録シ契約書ニ登録簿ノ證印ヲ捺シ商標登録證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十六條 共有ノ登録ヲ受ケタルモノニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ商標登録證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ商標登録證ニ裏書ノ上之ヲ登録商標主ニ返付スヘシ

第二十七條 共有者中ノ一人若クハ數人其商標ノ専用權ヲ他ノ共有者ニ賣與又ハ讓與セントスルトキハ第二十五條第一項ノ手續ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ第二十五條第二項ノ手續ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第八章 續用登録願及ヒ再下付願

第二十八條 商標條例第十四條ニ依ル續用登録願書ハ第四號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十七條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ登録有効期限内ニ差出スヘシ

第二十九條 商標條例第十五條ニ依ル再下付願書ハ第五號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十七條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第三十條 第二十九條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ寫書シタル商標登録ヲ下付スヘシ

第九章 改訂願

第三十一條 商標條例第十六條ニ依ル商標登録證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

- 一 明細書ノ説明ト商標見本ト符合セサルヲ發見シタルトキ
- 二 明細書ニ掲ケタル商標見本ノ構造ヲ變更セスシテ商標要部ノ範圍ヲ擴メ若クハ刪減シ又ハ他ノ部分ト交換スルノ必要アルコトヲ發見シタルトキ
- 三 商品ノ指定第三十四條ノ商品類別ニ違ヒタルコトヲ發見シタルトキ

第三十二條 改訂願書ハ第六號書式ニ從ヒテ之ヲ作り商標條例第十七條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書一通若クハ改訂見本二箇ヲ添ヘ現商標登録證及ヒ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十一條及ヒ第二十二條ノ手續ニ依リ其旨ヲ商標原簿ニ附記シ改訂商標登録ヲ送付スヘシ

第三十三條 改訂商標登録證ハ第七號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナ

第十章 商品類別

第三十四條 商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 化學品及ヒ藥劑

酸類、鹽類、「アルカリ」、漂白粉、護膜、膠、燐、石鹼、酒精、「グリセリン」、「キナエン」、「モルヒネ」、「丁幾劑、舍利別、煎劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等

第二類 染料及ヒ顔料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、藤黃等

第三類 塗料

漆、假漆、油漆、澁、靴墨等

第四類 香料及ヒ燻料

香油、髮膏、香具、香水、炷香、線香、煉香等

第五類 金屬及ヒ其半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類 金屬ノ製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第七類 利器及尖刃器

鎌、鋤、鑿、錐、鑿、針、釘、剪刀、小刀、剃刀、庖丁、鋸等

第八類 貴金屬及ヒ其製品（「アルミニウム」金、「ニッケル」銀ノ製品モ之ニ屬ス）

黃金、銀、四分一、紫銅其他貴金屬ノ合金鑲品、彫鏤品、「モール」等

第九類 珠玉及ヒ其彫鏤品

珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉及ヒ其模造品等

第十類 礦物類（但石炭ノ第五十一類ニ屬ス）

第十一類 石材及ヒ其製品並彫鏤品

版石、大理石、砥石、石器及ヒ其模造品等

第十二類 漆喰類

漆喰、「セメント」、石膏等

第十三類 陶磁器類

陶磁器、土器、埴埴、瓦、煉化石等

第十四類 七寶燒

第十五類 玻璃及ヒ其製品

玻璃壺、玻璃管、彩色玻璃等

第十六類 機械類

紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸製造機械、汽機、汽罐等
第十七類 農工器具

犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、墨繩等

第十八類 學術ノ上器械

理化學、醫術及ヒ測量等ノ器械

第十九類 度、量、權衡

第二十類 運送用ノ車類

荷車、馬車、人力車、自轉車等

第二十一類 樂器

琴、三味線、胡弓、笛等

第二十二類 時計及ヒ其附屬品

第二十三類 銃砲、彈丸、火藥、烟火等

第二十四類 蠶種紙、繭

第二十五類 真綿及ヒ木綿綿

第二十六類 生絲、絹絲及ヒ天蠶絲、(琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬)

第二十七類 蠶絲

第二十八類 毛絲

第二十九類 麻絲

第三十類 絹織物

第三十一類 木綿織物

第三十二類 毛織物

第三十三類 麻織物

第三十四類 絹、綿、麻、毛外ノ織物及ヒ交織物

第三十五類 絲類ノ編物及組物

「レース」、打紐、網等

第三十六類 被服

衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安等

第三十七類 醸造物及ヒ飲料

酒、酢、醬油、蜜柑水、曹達水、氷等

第三十八類 砂糖類

砂糖、蜂蜜、蜂蜜等

第三十九類 菓子及ヒ麵包類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等

第四十類 茶及ヒ珈琲類

第四十一類 煙草類

第四十二類 穀、菜、種子及ヒ菓物類

五穀、蔬菜、蕈、菓實、種子、根球、麴種モヤシ等

第四十三類 挽粉、澱粉及ヒ其製品

挽粉、澱粉、麪類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十四類 味噌、膏物及ビ漬物類

第四十五類 貯藏食品

鯉節、鰯、乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、鹹製品等

第四十六類 牛乳製品

凝乳、乳油、乳餅、乳粉等

第四十七類 コシヤシミツク 煙具及ビ袋物

煙管、烟袋、烟管筒、懷中物等

第四十八類 紙及ビ其製品

紙、色紙、短冊、摺草紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一開張、元結等

第四十九類 筆、墨類

筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、「ペン」等

第五十類 皮革及ビ其製品

馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓弦等

第五十一類 カレン 燃料類

炭、附木、附摺木、燈心等

第五十二類 油、蠟類

油、蠟、蠟燭、脂肪等

第五十三類 肥料

干鰾、餅粕、油粕、骨粉等

第五十四類 木竹材

第五十五類 木、材、籐製品及ビ其漆塗、蒔繪品類

指物、挽物、曲物、桶類、編物、組物等

第五十六類 角、甲、牙類ノ製品

第五十七類 藁及ビ草ノ製品

疊表、藁、編笠、繩、麥藁細工等

第五十八類 傘、杖及ビ履物

傘、杖、下駄、草履、鼻緒等

第五十九類 扇子及ビ團扇

第六十類 提燈及ビ「ランプ」類

第六十一類 齒磨及ビ洗粉

第六十二類 刷子及ビ髭類

第六十三類 玩具類

花簪、鞠、碁、將碁、人形、獨樂、揚弓、押繪、造花、骨牌等

第六十四類 錦繪及ビ寫真類

第六十五類 書籍、新聞紙、雜誌類

第六十六類 他類ニ屬セサル商品
書式 用紙美濃十三行
二十五字詰

第一號 商標ノ登録ヲ
願出ルトキ

商標登録願

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候間登録相受度此段相願候
也

本籍(及現住所)

營業名 出願商標ヲ使用スル
業名以下此例ニ依ル

身分

登録願人 氏 名 印
ハ所在地

營業名

登録願人 會社(組合)名 社印

社(組)長又ハ重役

氏 名 印

會社又ハ組合ヨリ差出ス書面
ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

農商務大臣(爵)氏

第二號 商標登録
證書式

第何號

商標登録證

本籍(及現住所)

營業名

身分 氏 名 印

商標條例ニ據リ本證附屬明細書ニ記載ノ商標ヲ登録シ右記名ノ者ニ二十年間專用權ヲ
與フルモノ也

年 月 日

農商務大臣(爵)氏 名 印

農商務省 氏 名 印
特許局長

第三號

登録商標ノ賣與、讓與又ハ共
有ノ登録ヲ請求スルトキ

登録商標賣與(讓與)又
共有登録請求書

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一第何號商標登録證

右私所有登録商標ヲ別紙契約書之通營業ト共ニ賣與(讓與)又ハ共有(候間登録相成度契
約書正副二通並ニ商標登録證相添此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日

四八〇

登錄商標主

氏

名印

本籍(及現住所)

身分、職業

買受(讓受)人

氏

名印

第四號

農商務省特許局長氏名殿
登錄商標ノ續用
ヲ願出ルトキ

登錄商標續用登錄願

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一第何號商標登錄證

右私所有登錄商標來ル明治何年何月何日ニテ專用年限滿期之處尙ホ引續キ專用致度ニ
付更ニ登錄相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登錄商標主

氏

名印

年月日

農商務大臣(爵)氏名殿

第五號

商標登錄證ノ再下
付ヲ願出ルトキ

商標登錄證再下付願

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一第何號商標登錄證

右私所有商標登錄證何々事由ヲ記ニ依リ毀損(亡失)候ニ付商標登錄證再下付相成度此
段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登錄商標主

氏

名印

年月日

農商務大臣(爵)氏名殿

第六號

商標登錄證ノ改
訂ヲ願出ルトキ

商標登錄證改訂願

〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一第何號商標登錄證

右私所有商標登錄證附屬ノ明細書(見本)中何々事由ヲ記ノ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難
キニ付別紙ノ通改訂致度尤之カ爲メ商標ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂商標登
錄證下付相成度別紙改訂明細書(改訂見本)並ニ現商標登錄證及ヒ附屬明細書(見本)相
添此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

登錄商標主

氏

名印

年月日

農商務大臣(爵)氏名殿

第七號

改訂商標登
錄證書式

第何號

改訂商標登錄證

本籍(及現住所)

營業名

身分

氏

名

商標條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日登錄ヲ許可シタル商標ニ對シ本證附屬明細書(見本)ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年月日

農商務大臣(爵)氏

名印

農商務省
特許局長

氏

名印

特許願書、意匠登錄願書、商標登錄願書ノ明細書、圖面ノ認方

明治二十五年十二月一日以後申願ニ係ル特許願書、意匠登錄願書、商標登錄願書ニ添フヘキ明細書圖面ハ左ノ標準ニ依リ認ムヘシ

- 一 明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ
- 二 明細書ニハ特許條例施行細則第十八條、意匠條例施行細則第八條、商標條例施行細則第七條ノ諸項目ヲ順次各別項ト爲シテ記載スヘシ
- 三 明細書中圖面ト對照シテ説明スルトキハ單ニ符號ノミヲ以テ部分ヲ指示スヘカラス必ス其符號ノ上ニ指示スヘキ部分ノ適當ナル名稱ヲ附スルヲ要ス
- 四 商標登錄願書ニ添フヘキ明細書ニハ商標ノ色彩ニ係ル説明ヲ爲スヲ要セ

- 五 圖面ハ礬水引ノ純白ナル美濃紙薄葉紙等ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ圓曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ於テ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ樣濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ調製スヘシ 但意匠圖面中圖樣大ニシテ縮少スルトキハ之カ意匠ヲ精密ニ示シ難キ場合ニアリテハ本項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 六 圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ豎ニ用ユルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ豎横混合シテ用ユヘカラス
- 七 圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ己ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス
- 八 發明、意匠ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス
- 九 圖面ハ色彩ニ係ルモノ、外一切著色スルヲ要セス
- 十 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖、第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用ユヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル樣濃墨ニテ明瞭ニスヘシ
- 十一 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ直線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ス并ハ其部分タケ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ
- 十二 裁斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又裁斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向差ヒタル斜線ヲ用ユヘシ
- 十三 凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲メ圖面ニ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒ簡明ニ畫クヘシ影射ハ成ルヘク施スヘラカス
- 十四 活版ニ應用スヘキ文字及記號ニ係ル意匠ノ圖面ヲ調製スルニハ左ノ項目ニ依ルヘシ
 - 一、 片假名、平假名、數字若クハ羅馬字ノ如キ數ニ定限アル文字ニ係ル意匠ヲ

ルトキハ其各字ノ全體ヲ示スヘシ 二、漢字ノ如キ數ニ定限ナキ文字ニ係ル意匠ナルトキハ其各字ノ全體ヲ示スヲ要セズ唯之ヲ構成スル部分即チ偏、旁、冠、構等ノ各種類ヲ舉示スベシ若シ偏、旁等ノ一部分ヲ以テ示シ難キ文字全體ニ係ル意匠ナルトキハ其全般ヲ推知スルニ足ルヘキ若干ノ字例ニ依テ之ヲ示スヘシ 三、文字ノ全體又ハ偏、旁等ニ關ヤス唯其點畫ニ屬スル形狀ニ係ル意匠ナルトキハ各種點畫ノ形狀並ニ之ヲ以テ組成セル文字ノ全體數種ヲ示スヘシ

●森林法

法律第四十六號

第一章 總 則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シニ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保護ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂壞崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 瘴氣、墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
- 六 魚附ノ必要ナル箇所
- 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
- 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
- 九 社寺名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

第十二條 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐不ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコトヲ得但シ御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシテ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ効力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノ、使用ヲ禁止スルコトヲ得
第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルテ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

- 一 根株ヲ毀壞若ハ隠蔽シテ罪跡ノ湮滅ノ圖リタルトキ
- 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
- 三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上テ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ属スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二條 盜ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ閉墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ閉墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ閉墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二百圓以上五十圓以

下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贖物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、樟腦其ノ他

樹木ノ脂液及木炭ハ贖物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅急納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主

務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ

規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限り翌年ヨリ

二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關ス

ル規程ニ限リ此法律ヲ適用ス但保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

重要輸出品同行組合法

法律第四十七號

第一條 重要輸出品ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關

係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要輸出品及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目

的ト爲スヘシ

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ該メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者五分ノ四

以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種

以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ五分ノ四以上ノ同意ヲ

要ス

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地區ノ範圍及組合ニ加入スヘキ營業ノ種類ヲ指定シ

若ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘ

シ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限

ニ在ラス

第五條 同業組合ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及訴訟上原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

同業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置ス

ルコトヲ得

四九四

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組長

一名

一 副組長

一名

一 評議員

若干名

役員ハ組合員中ヨリ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 同業組合又ハ同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ檢査規程ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ檢査スルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキ檢査規程ヲ設ケシムルコトヲ得

第十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ニ於テ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵スルノ必要アルトキハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並ニ徵收法ハ各其ノ定款ノ規程ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算貸借對照表及業務成績ハ每年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報

告スヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ業務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又主務官廳ノ諮問アルトキハ調査報告ヲ爲スヘシ

第十三條 同業組合及同業組合聯合會ハ農商務大臣ノ命シタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス又其ノ質問ニ對シ確實ニ答辨スヘキモノトス

第十四條 農商務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會又ハ其ノ役員ノ行爲若ハ同業組合會議及同業組合聯合會議ノ決議ニシテ法律命令ニ違背シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ同業組合及同業組合聯合會ノ目的ニ違背スルモノト認ムルトキ又ハ此ノ法律ニ依リ農商務大臣ノ命スル事項ヲ執行セザルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 同業組合及同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二 役員ノ全部又ハ一部ノ改選

三 決議ノ取消

第十六條 同業組合及同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 第四條第十三條ノ規程ニ違背シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス過料ハ同業組合及同業組合聯合會ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス

四九五

但シ其ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス付テハ民事訴訟法第六編ノ規程ヲ準用ス但シ此ノ
場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ効力ヲ有ス

第十八條 同業組合若ハ同業組合聯合會ノ檢査證ヲ營業品ニ偽リテ附シタル者又ハ偽造
若ハ模造ノ檢査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重懲劔又ハ十圓以上
百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十九條 輸出ニ屬セサル物品ト雖同業者ニ必要ヲ認ムルトキハ仍本法ヲ準用スルコト
ヲ得

關稅定率法

第一條 外國ヨリ輸入ナル物品ニシテ附屬稅表第一種ニ屬スルモノハ同表ノ稅率ニ依リ

輸入稅ヲ課シ第二種ニ屬スルモノハ輸入稅ヲ免シ第三種ニ屬スルモノハ輸入ノ禁ス

第二條 物品ノ課稅價格ハ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送
費、保險料其ノ他輸入港ニ到着スル迄ノ諸費ヲ加ヘテ算定ス

第三條 附屬稅表ニ掲クル物品ニシテ從價稅ニ代フルニ從量稅ヲ以テスルヲ便宜トスル
モノハ勅令ヲ以テ其ノ物品及細別ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ從量稅ハ前條ノ算法ニ依リ六箇月以上ノ平均價格ヲ算出シ附屬稅表ノ稅率ニ基
キ之ヲ定ムヘキモノトス

第四條 附屬稅表中二箇以上ノ稅率ヲ適用シ得ヘキ物品ニ對シテハ其ノ最高ノ率ニ從テ
課稅ス

第五條 左ノ物品ハ輸入稅ヲ課セス

第一 御料品

第二 帝國陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器彈藥及爆發物

第三 海軍艦船

第四 帝國ニ派遣セラレタル各國公使ニ屬スル自用品

第五 勳章賞牌

第六 記錄文書其ノ他ノ書類

第七 商品ノ見本但見本用コノミ適スルモノニ限ル

第八 旅具(旅客ノ携帯スルモノ)

第九 官立公立ノ博物館及物品陳列所へ永久陳列ノ爲ニ輸入スル物品

第十 内國産ニシテ五箇年以内ニ外國ヨリ積戻リ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セザルモノ但シ煙草類酒類ヲ除ク

第十一 修繕ノ爲外國ニ輸出シ再ヒ輸入スルモノ

第七號第八號第九號ハ物品ノ税關ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル

第十一號ノ物品ハ輸出ノ際豫メ再輸入ノ期限ヲ定ムヘシ

第六條 左ノ物出ニシテ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ再ヒ輸出スルモノハ輸入税ヲ課セ

但シ輸入ノ際其ノ輸入税金ニ相當スル金額ヲ預入レ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

第一 修繕ノ爲一時輸入スルモノ

第二 學術研究旅行者使用ノ爲一時輸入スルモノ

第三 試験品トシテ一時輸入スルモノ

第四 商人、工業者及注文取集旅商ノ見本品トシテ一時輸入スルモノ

第五 演劇其ノ他興行用ノ爲一時輸入スルモノ

第七條 附屬税表中改正ヲ要スルトキハ施行期日ヨリ少ナクモ六箇月前ニ之ヲ公布ス

附 則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(輸入税表ハ略ス)

●造船獎勵法

(法律第十六號)

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナ社員若クハ株主トスル商事會社ニシテ遞信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船獎勵金ヲ下付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ鐵製又ハ銅製ニシテ總噸數七百噸以上ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル

第三條 造船獎勵金ハ總噸數七百噸以上一千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金拾二圓一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金貳拾圓ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國内ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖モ豫メ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ

第四條 造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ノ船體及ヒ機關ニハ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルノ外、外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス

第五條 詐偽ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重懲罰ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船獎勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニ刑法數罪俱發ノ例ヲ用キス

第七條 前二條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五年間之ヲ施行ス

●造船獎勵法施行細則

(遞信省令第十六號)

第一條 造船獎勵法ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ營業地地方官廳ヲ經由シテ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

一 船舶件名書(第一號書式)

二 船圖

三 船體機關製造仕樣書

四 資格明細書

第二條 資格明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 造船所ノ位置

二 工場及船臺ノ面積(略圖ヲ添付スヘシ)

三 機械ノ種類

四 技師ノ族籍、氏名、履歷

第三條 船圖ハ左ノ十一種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

一 船體線圖

二 船體中央橫截面圖

三 船體中心線縱截面圖

四 船體各甲板及艙内平面圖

- 五 裝帆圖
 - 六 汽機橫截面圖
 - 七 汽機縱截面圖
 - 八 滑瓣整調圖
 - 九 汽罐橫截面圖
 - 十 汽罐縱截面圖
 - 十一 安全瓣裝置圖
- 第四條 同一ノ造船所ニシテ所有者二人以上アルトキハ其ノ一人ヲ總代トシ總所有者ノ氏名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ
- 第五條 商事會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ
- 一 會社ノ種類
 - 二 社員又ハ株主ノ氏名
 - 三 會社契約又ハ定款
 - 四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名
- 第六條 造船獎勵法第三條ノ但書ニ依リ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメントスル者ハ願書ニ其ノ旨ヲ記載シ前數條ノ書類ノ外其ノ工場ノ位置、面積及機械ノ種類ヲ記載シタル書面並製造請負契約書ヲ差出スヘシ

- 第七條 造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ備フル造船所ヲ有スル者ニ限ル
- 一 造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ヲ製造スルニ必要ナル船臺及諸機械ヲ備フルコト
 - 二 船體專任技師及機關專任技師各一人以上ヲ置クコト
- 第八條 第七條ニ定ムル技師ハ帝國大學工科大学又ハ之ト同等以上ノ學科ヲ備フル學校ヲ卒業シ三箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シタル者又ハ滿七箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シ遞信大臣ノ定ムル手續ニ依リ試験ヲ受ケ及第シタル者ニ限ル
- 第九條 遞信大臣ハ第一條第四條第五條又ハ第六條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ造船所ノ資格製造仕様書及船圖ヲ調査セシムヘシ
- 第十條 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ製造仕様書及船圖ヲ訂正若ハ追加セシメ又ハ造船所ニ臨檢スルコトアルヘシ
- 第十一條 検査官吏ノ報告ニ依リ遞信大臣ニ於テ造船獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ製造船舶ニ對シ地方官廳ヲ經由シテ出願人ニ第二號書式ノ認許證書ヲ下付スヘシ
- 第十二條 認許證書ヲ受有スル者ハ其ノ船舶ノ製造ニ關シ検査官吏ノ監督ヲ受ケヘシ 遞信大臣ハ造船所ニ於テ検査官吏ノ指揮ニ背戾シ又ハ其ノ命令ヲ遵奉セサル所爲アリト認ムルトキハ認許證書ノ返納ヲ命スヘシ
- 第十三條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ船體及機關ニハ左ニ掲グルモノ、外外國製品ヲ供用スルヲ得ス

- 一 船首材
- 二 船尾骨材
- 三 龍骨
- 四 雙螺旋軸支肘
- 五 徑七吋以上ノ諸軸
- 六 諸發條
- 七 鑄鋼製諸品
- 八 皺形及肋形火爐
- 九 專賣品

第十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶竣工シタルトキニ検査官吏ノ検査ヲ受ケ試運轉
ヲ執行シ其ノ立會ヲ以テ總噸數及實馬力ヲ算定スヘシ

第十五條 總噸數ハ船舶積量測度規則ニ依リ算定スヘシ
實馬力ハ航海獎勵法細則第七條ノ手續ニ依リ船舶ノ航走セシメ毎回各汽機ヨリ取りタ
ル示壓圖ニ依リ算定シタル實馬力ノ平均數トス但汽機回轉數ハ示壓圖ヲ取ル時間ニ於
ケル平均數ヲ用ウヘシ

第十六條 認許證書ヲ所有スル者第十四條ノ手續了リタルトキハ第三號書式ノ請求書
ニ認許證書ヲ添ヘ遞信省ニ造船獎勵法ノ下付ヲ出願スヘシ

第十七條 遞信省ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ審査ノ上造船獎勵金ヲ出願人ニ下

付スヘシ

第十八條 此ノ細則ニ規定ナキモノニ付テハ航海獎勵法施行細則ノ規定ヲ準用ス

(書式略ス)

●航海獎勵法

(法律第十五號)

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミチ社員若クハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有
ニ專屬シ帝國船舶ニ登録シタル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ於テ
貨物旅客ノ運搬ヲ營業トスル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海獎勵金
ヲ下附ス

第二條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ總噸數一千噸以上ニシテ一時間十
海里以上ノ最速力ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル鐵製又ハ鋼製汽船
ニ限ル

第三條 航海獎勵金ヲ受ケムトスル船舶ノ所有者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ遞信大臣ノ認許
ヲ受クヘシ

第四條 左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得ス

第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登録ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船
船

第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第三 帝國政府ノ命令ニ依レル航路ニ使用スル船舶

第五條 航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里ノ最快速力ヲ有スル船舶ニ對シ
 總噸數一噸航海里一千海里ニ付二十五錢ヲ支給シ總噸數五百噸ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ
 二十ヲ増給ス但シ總噸數六千五百噸以上又ハ最快速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對
 シテハ總噸數六千噸又ハ最快速力一時間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ支給ス
 航海獎勵金ハ製造後五箇年ヲ超過セサル船舶ニ對シテハ金額ヲ支給シ五箇年ヲ經過シ
 タル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス
 航海獎勵金ヲ算定スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セス

第六條 航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定ス

帝國各港へ寄港シ外國へ發航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外國ヨリ發
 航シ帝國各港ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其航海里數ヲ算定ス
 航海里數ヲ證明スルニハ寄港地官廳ノ寄港證明ヲ以テスヘシ

第七條 遞信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公
 用ノ爲ニ使用スルコトヲ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以
 内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セス

第八條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以內ニ
 於テ費用ヲ以テ航海修業生ヲ該船舶ニ乗組マシメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給スヘシ

總噸數一千噸以上二千五百噸未滿

二人

總噸數二千五百噸以上四千噸未滿

三人

總噸數四千噸以上

四人

第九條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非レハ外國人
 ヲ其ノ本支店ノ事務員若クハ該船舶ノ職員ト爲スヲ得ス但シ外國ニ於テ死亡其他止
 ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ經テ之ヲ補
 フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ遞信大臣ノ許可ヲ請フ
 ヘシ

第十條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ
 遞信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物、小
 包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ遞送スヘシ

第十一條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ航海獎勵金ヲ受ケ航海
 スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、貸渡、交換、
 贈與、質入、書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還シタル
 片又ハ天災其他抗拒スヘカテサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサル片若クハ遞信大臣ノ許可
 ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在テス

第十二條 遞信大臣ハ此ノ法律ニ依リ船舶所有者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ
 代人若クハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規程ニ違背シタル者

ハ一年以上五年以下ノ重懲錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十四條 此ノ法律ニ依リ遞信大臣ノ發スル命令ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セシ

メ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ其ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還セシム

第十七條 船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ遞信大臣ハ航海獎勵金ノ下付ヲ停止ス

スルコトヲ得第十二條ノ場合ニ於テ其ノ代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十八條 前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲ケル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條 此ノ法律ハ明治廿九年十月一日ヨリ施行ス

●航海獎勵施行細則

(遞信省令第十五號)

第一章 總則

第一條 航海獎勵法ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添へ營業地

地方官廳ヲ經由シテ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

一 船舶件名書(第一號書式)

二 船圖

三 船舶乘組員名簿(第二號書式)

四 營業目論見書(第三號書式)

第二條 船圖ハ左ノ三種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

一 船體中央橫截面圖

二 船體中心線縱截面圖

三 機關室ヨリ海水又ハ淡水ニ通スル諸管及隣子配管ノ平面圖

第三條 同一ノ船舶ニシテ所有者二人以上アルトキハ登簿船免狀ニ記名シタル所有者ヨリ總所有者ノ氏名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添へ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

第四條 商事會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル

書面ヲ添へ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

一 會社ノ種類

二 社員又ハ株主ノ氏名

三 會社契約又ハ定款

四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名

第二章 船舶ノ檢査

第五條 遞信大臣ハ第一條第三條又ハ第四條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ檢

查官吏ヲシテ其船舶ヲ検査セシムヘシ

第六條 船舶ノ検査ハ遞信大臣ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ執行ス

第七條 船舶ノ最速力ハ其船舶ヲシテ検査官吏ノ認可シタル喫水及自然通風ノ機關力ヲ以テ三海里以上四海里以下ノ距離ヲ六回航走セシメ平均ノ平均數ニ依リ之ヲ算定ス但回轉中ト雖モ常ニ機關ヲ全速力ト爲スヲ要ス

第八條 船舶ハ進水ノ日ヲ以テ製造ノ日トス

進水ノ日ヲ證明スルニハ内國製造ノ船舶ニ在テハ製造地地方官廳、外國製ノ船舶ニ在テハ該地所管帝國領事ノ證明ヲ以テスヘシ但日ノ不明ナルモノハ其ノ月ノ一日、月ノ不明ナルモノハ其ノ年ノ一月ニ進水シタルモノトス

第九條 検査官吏船内ニ臨檢スルトキハ其ノ船舶ノ所有者又ハ船長ハ検査ニ必要ナル準備ヲ爲シ其ノ命令ヲ遵守スヘシ

第十條 認許證書ヲ受有シタル後其ノ船舶ニ損傷ヲ生シタルトキ若ハ之ニ修繕ヲ加ヘタルトキハ其ノ所有者又ハ船長ヨリ事由ヲ明記シ遞信省ニ届出ツヘシ

第三章 認許證書

第十一條 遞信大臣ニ於テ第五條ノ検査ヲ受ケタル船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ地方官廳ヲ經由シテ第四條書式ノ認許證書ヲ出願人ニ下付スヘシ

第十二條 認許證書ノ有効期間ハ一箇年以内ニ於テ船舶ノ現狀ニ依リ之ヲ定ム

第十三條 認許證書ヲ亡失毀損シ又ハ該證書ニ記載スル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其

ノ再授若ハ書換ヲ出願スヘシ其ノ書換ヲ出願スル場合ニハ舊證書ヲ返納スヘシ

第十四條 認許證書ヲ受有スル者左ノ事項ニ該當スルトキハ直ニ認許證書ヲ返納スヘシ

一 證書ノ有効期間満了ノトキ

二 船舶ヲ賣渡、貸渡、交換又ハ贈與シタルトキ

三 營業ヲ廢止又ハ停止シタルトキ

四 船舶ヲ喪失又ハ解撤シタルトキ

五 航海獎勵金ノ下付ヲ停止セラレタルトキ

六 前數號ノ外航海獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

第十五條 認許證書ヲ受有スル者死亡又ハ破産シタルトキハ其ノ遺族又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

認許證書ヲ受有スル商會社解散又ハ破産シタルトキハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

第十六條 前三條ノ場合ニ於テ認許證書ノ返納ヲ怠リタルトキハ其ノ證書ノ無効ナル旨ヲ官報ニ告示スヘシ

第十七條 賣買交換若ハ贈與ニ依リ認許證書有効期間内ノ船舶ヲ取得シタル者更ニ認許證書ヲ受有セントスルトキハ第一條第三條又ハ第四條ノ書類ニ其船舶ニ對スル登記ノ原本ヲ添へ遞信省ニ差出スヘシ

相續若ハ結婚ニ因リ認許證書有効期間内ノ船舶ヲ取得シタル者更ニ認許證書ヲ受有セ

ノトスルトキハ其ノ事實ニ對スル市町村長ノ證明書及登記ノ謄本ヲ添ヘ遞信省ニ差出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ船舶ノ検査ヲ須キスシテ認許證書ヲ下付スルコトアルヘシ其ノ有効期間ハ舊證書ノ有効期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 認許證書ヲ受有スル者第一條第三條又ハ第四條ノ書類ニ記載シタル事項ニ訂正ヲ要スルモノアルトキ又ハ之ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第四章 航海

第十九條 認許證書ヲ受有スル者其ノ船舶ヲ航海獎勵金ヲ受クル航海ニ使用セントスル片ハ其ノ都度豫メ航路、發航地、寄港地、到達地及各港發著期日ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第二十條 認許證書ヲ受有スル船舶ニハ特ニ遞信省ノ檢閲ヲ經タル航海日誌及機關日誌ヲ備ヘ同日誌記載心得ニ依リ各事項ヲ記入スヘシ

第二十一條 認許證書ヲ受有スル船舶帝國ニ發著スルトキハ稅關ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ

外國合港ニ發著スルトキハ帝國領事館又ハ貿易事務館ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地方ニ於テハ外國官廳ノ證明ヲ受クヘシ

第五章 航海修業生

第二十二條 航海獎勵法第八條ニ依リ航海修業生ヲ船舶ニ乗組マシムルトキハ該船舶ノ

所有者ハ之ニ食料ヲ給與シ及相當ノ居室並寢具ヲ貸與スルノ外左ノ割合ニ依リ手當ヲ支給スヘシ

- 一 海上履歷一年未滿ノ者 月額金三圓以上
- 二 海上履歷二年未滿ノ者 月額金五圓以上
- 三 海上履歷二年以上ノ者 月額金七圓以上

第二十三條 航海修業生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長ハ該修業生ヲシテ技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ六箇月毎ニ其ノ狀況ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ但六箇月ニ達セシテ下船シタルトキハ下船ノ際之ヲ報告スヘシ

第二十四條 航海修業生執務ノ爲メ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ被リタルトキハ該船舶ノ所有者ハ三箇月ヲ超エサル期間醫藥ノ費用ヲ給與スヘシ

第二十五條 船舶所有者ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニアラサレハ航海修業生ヲ下船セシムルコトヲ得ス

止ムヲ得サル事故ニ因リ前項ノ認可ヲ受クル暇ナク航海修業生ヲ下船セシメタルトキハ其事由ヲ詳記シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 船舶所有者航海修業生ヲ下船セシムルトキハ下船地ヨリ遞信大臣ノ指定スル地迄ノ旅費ヲ支給スヘシ但失行ニ因リ下船セシムルトキハ此ノ限ニアラス

第六章 外國人ノ使用

第二十七條 認許證書ヲ受有スル者其ノ本支店ノ事務員又ハ該船舶ノ職員ト外國人ヲ使

一 使用ノ理由

二 契約ノ條項

三 被雇者ノ國籍、氏名、現住所、生年月及履歴

四 海技免狀ヲ受有スル者ナルトキハ其ノ免狀寫

第二十八條 遞信大臣ノ認可ヲ受ケ使用シタル外國人ヲ解雇シタルトキハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第二十九條 外國ニ於テ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シ外國人ヲ以テ之ヲ補ハントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ帝國領事館又ハ貿易事務館ノ公認ヲ受ケ事後第二十七條ノ手續ヲ爲スヘシ但帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地ニ在テハ外國官廳ノ公認ヲ受クヘシ

第七章 郵便物

第三十條 認許證書ヲ受有スル船舶航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テ各地ニ發著スルトキハ其ノ都度豫メ該地帝國郵便局ニ届出ツヘシ

第三十一條 郵便吏員乘船スルトキハ事務取扱ニ差支ナキ相當ノ船室ヲ供シ且相當ノ待遇ヲ爲スヘシ

第三十二條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送ヲ命セラレタルトキハ盜難、濕氣、火災等ノ虞ナキ安全ナル場所ヲ選ヒ之ヲ保管スヘシ

第三十三條 遞送ヲ命セラレタル郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ハ郵便

一 吏員乘船スルトキハ該吏員、郵便吏員乘船セサルトキハ本船ノ船長若ハ一等運轉手之ヲ取扱テ爲スヘシ

第三十四條 航海中遭難其ノ他ノ事故ニ因リ郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ遞送スルトキハ別ニ定ムル方法ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第三十五條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送ヲ命セララル船舶ハ郵便旗章ヲ掲揚スヘシ

第三十六條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送並授受ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

第八章 船舶ノ使用

第三十七條 遞信大臣航海獎勵法第七條ニ依リ船舶ヲ使用セントスルトキハ其期日、期間、給與金額及回航地ヲ定メ之ヲ該船舶ノ所有者又ハ船長ニ通達スヘシ
船舶所有者又ハ船長ハ前項ノ期日迄ニ指定地ニ本船ヲ回航セシムヘシ

第九章 航海獎勵金

第三十八條 各港間ノ最近里數ハ海軍水路部刊行最新ノ海圖ニ據リ其刊行ナキ航路ニ在テハ英國海軍水路部刊行最新ノ海圖ニ據リ之ヲ算定ス

第三十九條 航海獎勵金ヲ請求スル者ハ一航海ヲ終リタル毎ニ第五號書式ノ請求書及第六號書式ノ明細書ニ航海日誌其ノ他航海ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル書類ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第四十條 遞信省ニ於テハ前條ノ請求書及關係書類ヲ審査シテ航海獎勵金ヲ船舶所有者ニ下付スヘシ

第四十一條 船舶所有者代人又ハ船長ニ於テ航海獎勵法違反ニ關シ起訴セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定スル迄航海獎勵金ノ下付ヲ中止スヘシ

第十章 雜則

第四十二條 天災其ノ他抗難スヘカラサル強制ニ因リ船舶ノ航行ニ堪ヘサル場合ニ於テ航海獎勵法第十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ該船舶船長又ハ所有者ヨリ其ノ事由ヲ具シ帝國領事館又ハ貿易事務館ノ公認ヲ受ケ遞信省ニ届出ツヘシ但帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地ニ在テハ外國官廳ノ公認ヲ受クヘシ

第四十三條 認許證書ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ毎年少クモ一回計算ヲ閉鎖シ損益計算書財産目錄貸借對照表事業報告書ヲ作り遞信大臣ニ報告スヘシ

第四十四條 認許證書ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ計算監查ノ爲メ遞信大臣ノ命スル監查官吏營業所ニ臨檢スルトキハ帳簿及證憑書類ヲ提出シテ其ノ檢閲ニ供スヘシ

第四十五條 認許證書ヲ受有スル者外國人ト三箇月以上繼續スル商事契約ヲ締結シタルトキハ契約條項ヲ具シ直ニ遞信省ニ届出ツヘシ (書式略ス)

船舶檢査法

(法律第六十七號)

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除ク外、此法律ノ規程ニ依リ檢査ヲ受クヘシ

一 海軍艦船

二 登簿噸數十五噸未滿若クハ積石數百五十石未滿ノ帆船

三 湖川其ノ他靜穩ノ海上ヲ航行スル帆船

四 櫓權ノミヲ以テ航行スル船舶

第二條 此ノ法律ニ依リ檢査ヲ受クヘキ汽船ハ遠洋航船近海航船沿海航船平水航船ノ四種トシ帆船ハ遠洋航船近海航船ノ二種トス

第三條 船舶ノ檢査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間滿了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第五條 登簿噸數十五噸以上若クハ積石數百五十石以上ノ船舶ノ檢査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル船舶司檢所之ヲ行ヒ登簿噸數十五噸未滿ノ汽船ノ檢査ハ其ノ仕出地ノ地方官廳之ヲ行フ

第六條 檢査官吏船舶ヲ檢査シ遞信大臣ノ定ムル檢査規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限旅客定員汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶檢査證書ヲ交付スヘシ

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書受有ノ前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若シ特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 遞信大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外船舶検査證書若クハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若クハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定期航行期間ヲ超ヒテ航行シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書若クハ假證書ヲ受ケ又ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ又ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ必要ナル属具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタル者亦同シ

船舶検査證書若クハ假證書ニ記載スル者ハ定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタル旅客十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ク

ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第十二條 船舶ノ航路定期航行期間旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書ハ其ノ有效期間滿了マテ效力ヲ有ス

第十六條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數百五十石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受クルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第十七條 此ノ法律ハ外國ノ船籍ニ屬スル船舶ヲ借入レ帝國各港ノ間又ハ帝國ト外國トノ間ニ於テ航行ノ用ニ供スル者ニモ亦之ヲ適用ス

船舶職員法

(法律第六十八號)

第一條 日本船舶ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムハシ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラザレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登

録ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船院ニ乗組ミ運轉若クハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ

遞信大臣ニ於テ海員試験規程ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ用キスシテ相當ノ免狀ヲ

授與スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ニ海員試験ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タル

コトヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ贖償ヲ

終ヘサル者

三 瘋癲白痴者若クハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其行使停止中ノ者

第七條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉

士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、乙

種船長ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種二等運轉士

ノ免狀ニ對シ、丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、各高等ノ免狀トス

機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ

免狀ニ對シ二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第八條 左ニ掲クル者ハ二拾圓以上二百五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乗組マシメサル者

二 第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ船舶職員ト爲リタル者

三 第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者

四 海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者
 五 海技免狀行使ノ假停止若クハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執リタル者
 第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス
 前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若クハ使用人ニ之ヲ適用ス

附則

第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
 第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十三條 前項ニ掲ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得
 第十四條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十五條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歲以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試驗ヲ用キスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十六條 遞信大臣ハ第一號表中近海船ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ハ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

第一號表
 航路定限船舶種類登簿噸數積石數職員名稱免狀種類

遠洋航船		汽船	
船	帆	船	汽
三百噸以上	三百噸未滿	三百噸以上	三百噸未滿
船	船	船	機
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士
長甲種一等運轉士	長甲種一等運轉士	長甲種一等運轉士	長甲種一等運轉士
船	船	船	機
二等運轉士	二等運轉士	二等運轉士	二等運轉士
長甲種二等運轉士	長甲種二等運轉士	長甲種二等運轉士	長甲種二等運轉士

第一號表

新舊免狀對照表

沿海航船 水平航船

汽船		汽船	
二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿
船機 關	船機 關	船機 關	船機 關
長乙種二等運轉士	長乙種二等運轉士	長乙種一等運轉士	長乙種一等運轉士

近海航船

汽船		帆船	
五百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿	五百噸以上
船機 關	船機 關	船機 關	船機 關
長乙種一等運轉士	長乙種一等運轉士	長丙種運轉士	長丙種運轉士

五二四

新免狀

五二五

- 甲種船 長
 - 甲種一等運轉手
 - 甲種二等運轉手
 - 甲種一等機關手
 - 甲種二等機關手
 - 乙種船 長
 - 假免狀船 長
 - 乙種一等運轉手
 - 假免狀一等運轉手
 - 乙種二等機運轉手
 - 假免狀二等運轉手
 - 乙種一等機關手
 - 假免狀一等機關手
 - 乙種二等機關手
 - 假免狀二等機關手
 - 小形船 船長
 - 小形船 機關手
-
- 甲種船 長
 - 甲種一等運轉士
 - 甲種二等運轉士
 - 機 關 長
 - 一等機關士
 - 乙種船長若クハ丙種船長
 - 乙種船長若クハ丙種船長
 - 乙種一等運轉士若クハ丙種運轉士
 - 乙種一等運轉士若クハ丙種運轉士
 - 乙種二等運轉士若クハ丙種運轉士
 - 乙種二等運轉士若クハ丙種運轉士
 - 一等機關士
 - 二等機關士
 - 二等機關士
 - 二等機關士
 - 乙種二等運轉士
 - 三等機關士

登簿船免狀取扱規則

(逕信省第三號)

第一條 登簿船免狀ヲ受有スヘキ船舶ヲ取得シ帝國ノ船籍ニ編入スル者ハ本管轄廳ヲ經由シテ願書ヲ逕信省ニ差出シ登簿船原簿ニ登錄ヲ受ケ登簿船免狀ノ下付ヲ請フヘシ

第二條 第一條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル件名書並ニ外國人ヨリ取得シタル船舶ニ係ルトキハ其ノ取得ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

- 一 船名
- 一 定繫港
- 一 本船管轄廳名
- 一 船ノ種類
- 一 甲板ノ層數
- 一 船體ノ材料
- 一 檣ノ數
- 一 船骨ノ材料
- 一 綱具ノ裝置
- 一 船尾ノ形狀
- 一 製造地名
- 一 製造年月
- 一 造船工長ノ氏名

- 一 船ノ原名
- 一 舊船免狀ノ番號
- 一 船主ノ氏名住所
- 一 一箇年ノ船稅
- 一 量噸甲板最大ノ長
- 一 内堀リ最大ノ幅
- 一 艙室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ内板ニ至ル深
- 一 量噸甲板上諸部ノ噸數(若シアレハ)即チ
- 一 甲板間ノ場所
- 一 船尾室
- 一 圓室
- 一 其他ノ場所(若シアレハ)
- 一 總噸數
- 一 内除去スヘキ噸數
- 一 機關室ノ噸數
- 一 乘組人常用室ノ噸數
- 一 登簿噸數
- 一 機關ノ數

一 公稱馬力

- 第三條 第一條ノ願書ヲ受ケタル管轄廳ハ船舶積量測度規則ニ從ヒ之ヲ測度シ第一號書式ノ測度表ヲ作り件名書ヲ照査シ願書及關係書類ト共ニ遞信省ニ進達スヘシ
- 第四條 登簿船原簿ニハ各船毎ニ番號信號符字並ニ第二條ノ登項ヲ各別ニ登錄スヘシ
- 第五條 登簿船原簿ニ登錄シタル事項又ハ登錄船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ本船管轄廳ヲ經由シテ遞信省ニ其ノ事由ヲ記載シタル願書ヲ差出シ登錄ノ變更及免狀ノ書換ヲ請フヘシ但船主ノ變更シタル場合ニハ登記ノ謄本ヲ添付スヘシ
- 第六條 船舶ノ積量ニ變更ヲ生シタルトキハ管轄廳ハ更ニ測度表ヲ調製シ之ヲ遞信省ニ進達スヘシ
- 第七條 登簿船免狀ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ本船管轄廳ヲ經由シテ遞信省ニ再授ヲ出願スヘシ
- 第八條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶破壊、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキ若クハ日本船舶タル資格ヲ失ヒタルトキ又ハ登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル船舶ト爲リタルトキハ本管轄廳ヲ經由シテ遞信省ニ事由ヲ記載シタル願書ヲ差出シ登簿船原簿ノ削除ヲ請ヒ同時ニ受有ノ登簿船免狀ヲ返納スヘシ
- 破壊、喪失、若クハ解撤ノ場合ニハ前項ノ願書ニ事由ノ發生シタル場所及其ノ日時ヲ明記スヘシ

失踪ノ場合ニハ明治二十六年三月遞信省令第六號失踪船取扱規則第二條第二項ニ規定

スル期間満了ノ後出願スヘシ

第九條 第一條第五條又ハ第八條ニ依リ登録又ハ登録ノ變更若クハ削除ヲ出願スル者ハ登録稅法第四條ニ從ヒ相當ノ登記印紙ヲ貼用シタル登録稅上納書ヲ願書ト共ニ差出スヘシ

貼用シタル印紙ニハ上納書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ署名ノ下ニ押捺セル印ヲ以テ消印スヘシ

第十條 登録稅ハ登簿噸數ニ依リ之ヲ算定ス

登録稅法第四條第四號ニ關シテハ第四條ノ每一事項ヲ各一件トス

附則

第十一條 此ノ規則ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第十二條 明治二十年(五月)内務省丙第二十五號達ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(書式略之)

●造船規定

第一編 船體

第一章 總則

第一條 此ノ規程ニ於テ鐵船ト稱スルハ外板ニ鐵ヲ用キ船骨ニ鐵若ハ鋼ヲ用ウルモノヲ謂ヒ鋼船ト稱スルハ外板ニ鋼ヲ用キ船骨ニ鋼若ハ鐵ヲ用ウルモノヲ謂フ

第二條 此ノ規程ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其上甲板ニ隨意ニ船室ヲ構造シ得ヘキ船舶ヲ謂フ但三層重甲板船ト稱スルハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ニシテ二層以上ノ甲板及艙梁若ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨ヲ有スルモノヲ謂フ

輕甲板船ト稱スルハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ニシテ二層以上ノ甲板及艙梁若ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨ヲ有シ其ノ構造重甲板船ニ比シ稍輕裝ニシテ其ノ上甲板ニハ操舵室、海圖室等ヲ除クノ外特ニ相當ノ構造ヲ加フルニアラサレハ船室ヲ設置スルニ適セサル船舶ヲ謂フ

覆甲板船ト稱スルハ其ノ構造輕甲板船ニ比シ尙輕裝ニシテ其ノ上甲板ニハ操舵室、海圖室等ヲ除クノ外船室ヲ設置スニ適セサル船舶ヲ謂フ

重甲板船ノ上甲板ヲ重甲板、輕甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板、覆甲板ノ上甲板ヲ覆甲板ト謂フ

第三條 此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ重甲板梁上ニテ、輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁上ニテ、覆甲板船ニ於テハ正甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單螺旋

汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、双螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂但上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿フテ真直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ
幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ
深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ重甲板船ニ於テハ重甲板梁ノ上面迄、輕甲板及覆甲板船ニ於テハ正甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第四條 此ノ規程ニ於テ第一數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トノ和ニ

龍骨上面ノ中心ヨリ重甲板ノ梁上側板ニ至ル正肋材ノ船體中央ニ於ケル長ヲ加ヘタル
數ヲ謂フ但三層重甲板船ニ於テハ其ノ數ヨリ七呎ヲ減シタルモノヲ謂フ又輕甲板船及ヒ覆甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トノ和ニ正甲板ノ梁上側板ニ至ル正肋材ノ船體中央ニ於ケル長ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二數ト稱スルハ第一數ニ船ノ長ヲ乘シタル數ヲ謂フ

第二項ノ長、幅及ヒ深ハ呎ヲ以テ本位ト爲シ呎以下ハ二位ニ止メ其ノ以下ハ四拾五入スヘシ

第五條 此ノ規程ニ於テハ特ニ其船條項ニ規定シタル場合ヲ除クノ外船ノ長、深ノ十一倍ヲ超エサル船舶構造方法ヲ示シ又寸數員數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモトス

第六條 此規程ニ於テ鐵材ノ寸法ハ別表中號ニ據リ鋼材ノ寸法ハ乙號ニ據ルヘシ其ノ甲

號及ヒ乙號ノ區別ナキモノハ鐵材及ヒ鋼材ニ通シテ之ヲ適用スヘシ

第七條 正肋材、副肋材、肋材ノ寸法、隔壁板ノ厚、梁柱ノ徑及ヒ肋骨間ノ距離ハ第一數

ニ依リ之ヲ定メ龍骨、船首材、船尾骨材、内龍骨、二重底ノ内底板、縱通桁板、船内縱通材、梁上側板、外板、甲板、内張板、及ヒ舵等ノ寸法ハ第二數ニ依リ之ヲ定メ梁ノ寸法ハ船體ノ中央ニ於ケル梁ノ長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第八條 船舶ニハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外船底全部ヲ通シテ二重底ヲ設クヘシ

一 總噸數二千噸未満ノ船舶

二 特殊ノ用ニ供スル爲メ其ノ構造ニ對シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル船舶

第九條 此ノ規程ニ定ムル試驗ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ

試驗器ハ検査官吏ノ檢定ヲ經タルモノヲ用ウヘシ

第十條 此ノ規程中試驗ニ關スル條項ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ限り之ヲ適用セサルコトアルヘシ

第十一條 此ノ規程ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ遞信大臣ニ於テ此ノ規程ト同一ノ効力ヲ有スルト認ムルモノニ限り特ニ之ヲ合格ト爲スヘシ

第二章 試驗

第十二條 鐵材ハ可性鍛ニシテ一平方呎ノ抗張力ハ纖維ニ沿ヒテハ二十噸以上、纖維ヲ横リテハ十八噸以上又其伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ纖維ニ沿ヒテハ百分ノ四以上、纖維ヲ横リテハ百分ノ一、五以上ナルヲ要ス但山形材、球板等ニハ纖維ヲ横ルノ試驗

ヲ執行スルコトヲ要セス

第十三條 鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ厚二十分ノ八吋以下ナルトキハ百分ノ十六以上又厚二十分ノ八吋ヲ超ユルトキハ百分ノ二十以上ナルヲ要ス但平板ヲ除キ其ノ他ノ鋼材ハ可鍛性ノモノニ限り抗張力ノ上限ヲ三十三噸ト爲スコトヲ得

二 屈曲試験 試験材ヲ櫻紅色ニ熱シタル後華氏八十二度ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ厚ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ二重ニ屈曲シ烈疵ヲ生サルヲ要ス

第十四條 鋼製ノ鉸釘ハ之ヲ熱シ其ノ頭ヲ釘經ノ二、五倍迄ニ平扁ニ打壓シ且釘身ヲ平扁ニシ之ニ釘經ニ等キ打貫孔ヲ穿ケ烈疵ヲ生セサルヲ要ス

第十五條 鑄鋼製ノ船尾骨材、舵及ヒ舵柄等ニハ左ノ試験ヲ行フヘシ

一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十五噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ百分ノ八以上ナルヲ要ス

二 屈曲試験 徑一時四分ノ一ノ圓材又ハ一時四分ノ一ノ角材ヲ作り内面ニ於テ二吋ヨリ多カラサル半徑ノ弧狀ニ曲ケ九十度以上ニ至リ烈疵ヲ生セサルヲ要ス

三 衝擊試験 一材ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ突出部ノ形狀ニ適合スヘキ穴ヲ硬質ノ地面ニ穿テ置キ該材ノ一端ヲ地面ト四十五度ノ傾斜ニ起シテ地上ニ墜落シ又舵及ヒ二材以上ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ形狀及ヒ重量ニ應シ七呎乃

至十呎ノ高ヨリ之ヲ墜落シ後之ヲ吊シテ重量七磅以上ノ錘ヲ以テ敲キ其ノ生來ノ烈疵及ヒ本試験ニ起因スル烈疵ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ナキヲ要ス

第十六條 第十二條第十三條ノ試験ハ同一ノ用ニ供スル材料五十箇毎ニ一箇、第十四條ノ試験ハ鉸釘十箇毎ニ一箇ヲ採リ之ヲ執行シ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ二箇迄ヲ増シ適否ヲ檢定スヘシ

第十七條 遞信大臣ハ前數條ノ試験ニ合格セサルモノト雖モ其ノ使用ノ方法及ヒ部局ヲ限り條件ヲ附シテ之カ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

第三章 龍骨、船首材及ヒ船尾骨材

第十八條 方形龍骨、船首材及ヒ船尾骨材ノ寸法ハ第二號表ニ據リ其ノ嵌接ノ長ハ用材ノ厚ノ九倍ト爲スヘシ

第十九條 龍骨翼板ノ厚ヲ第二號ニ掲クルモノヨリ増ストキハ其割合ニ應シテ方形龍骨ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第二十條 側板龍骨ノ合厚ハ第二號表ニ掲クル方形龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十一條 平板龍骨ノ寸法ハ第二號表ニ據ルヘシ
平板龍骨ニハ斷切内龍骨板若ハ中心線堅板ヲ附シ其ノ兩側ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ヲ附シ之ヲ龍骨ニ固着スヘシ

平板龍骨ノ銜接ハ三列釘固着ト爲スヘシ
第二數二萬六千以上ノ船舶ニ斷切内龍骨ヲ附スルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分

ノ一間ハ平板龍骨ヲ二重ト爲スヘシ

第二十二條 船首材ノ寸法ハ最大喫水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第二號表ニ掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

第二十三條 螺旋汽船ノ船尾材ノ寸法ハ其ノ龍骨ト嵌接スヘキ部分ニ於テハ漸次龍骨ノ寸法迄ニ減少スヘシ

單螺旋汽船ノ舵柱ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於テハ第二號表ニ掲クル船首材ノ寸法ト同一ト爲スコトヲ得

外車汽船若ハ帆船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第二號表掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

第二十四條 船尾材ヲ龍骨ニ接合スル嵌接ノ後端ヨリ船尾材ノ前面迄ノ距離ハ外車汽船及ヒ帆船ニ於テハ肋骨間距離ノ一、五倍又螺旋汽船ニ於テハ二、五倍ヨリ少カルヘカラス

第二十五條 第二號單螺旋汽船ニ於テハ船尾材ヲ上部ニ延長シテ肋板及ヒ梁上ニ張りタル鐵板若ハ鋼板ニ固着スヘシ

第二十六條 單螺旋汽船ノ舵柱、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ其ノ兩側ニ第一號表ニ掲クル正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ船尾肋板ニ固着スヘシ

第二十七條 舵蝶鉸ノ壺金ハ五呎六吋以內ノ距離ニ於テ舵柱若ハ船尾材ニ鍛接スヘシ

第四章 正肋材

第二十八條 正肋材ノ寸法及ヒ肋骨間ノ距離ハ第一號表ニ據ルヘシ但覆甲板船ニ於テハ其ノ寸法鐵ナルトキハ幅三呎二三吋厚十六分ノ六吋、鋼ナルトキハ幅三吋二三吋厚二分ノ六吋ヨリ小ナルヘカラス

正肋材ハ龍骨ヨリ船體ノ上端迄達セシムヘシ但覆甲板、船首樓、船尾樓、船橋樓若ハ低船尾樓ヲ備フル船舶ニ於テハ上端ノ形狀圓形ナルトキハ正肋材ヲ圓形ノ下部ニ止ムルコトヲ得

第二十九條 正肋材ノ銜接ハ中央部ニ於テ少クモ船ノ長ノ四分ノ三間ハ其ノ裏面ト同寸法ニシテ長三呎以上ノ山形材ヲ附シテ固著スヘシ

第五章 肋板

第三十條 船ノ中央部ニ於ケル肋板ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ但鐵ニテ其ノ厚十六分ノ九吋以下ナルトキハ汽機室及ヒ汽罐室ニ於テハ之ニ十六分ノ一時ヲ増シ又鋼ナルトキハ汽機室ニ於テハ之ニ二十分ノ一時、汽罐室ニ於テハ二十分ノ二吋ヲ増スヘシ
肋板ハ鐵ニテ厚十六分ノ九吋以上。鋼ニテ厚二十分ノ九吋以上ナルトキハ中央部ニ於ケル船ノ長ノ十分ノ六間ハ第一號表ニ於ケル厚ト爲シ其ノ前後ニ於ケル船ノ長ノ十分ノ一間ハ鐵ナルトキハ之ヨリ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋ヲ減シ船ノ首尾ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋ヲ減スルヲ得
龍骨ノ中心ヨリ正肋材ニ沿ヒテ船ノ幅ノ八分ノ三ニ相當スル箇所ニ於ケル肋板ノ梁ハ其中央ニ於ケル深ノ二分ノ一ヨリ又其兩端ニ於テハ正肋材ノ幅ヨリ少カルヘカラス

龍骨ノ上面ヨリ測リタル兩端外面ノ高ハ中央部ニ於ケル船ノ長ノ四分ノ一間ハ中央ニ於ケル深ノ二倍ト爲シ其ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ中央ニ於ケル深迄ニ減少スルヲ得但船ノ首尾ニ於テハ漸次肋板ノ深ヲ増シ之ニ内龍骨ヲ取附クルヲ得ヘカラスムヘシ

船尾隔壁ノ後部ニ於テハ肋板ヲ豎尾管ノ上部ニ達セシムヘシ

第三十一條 肋板ハ正肋材毎ニ取附ケ若シ龍骨上ニ中心線豎板ヲ備フルトキハ其ノ兩面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ豎板ニ固着スヘシ

第三十二條 肋板ヲ二枚以上ニ造ルトキハ其ノ銜接ハ二重覆板ヲ附シ三列釘固着ト爲スヘシ但各覆板ノ厚ハ肋板ノ厚ノ三分ノ二ト爲スヘシ

前項ノ銜接ハ之ヲ累接トシテ三列釘固着ト爲スモ妨ナシ

第三十三條 隔壁ヲ取附クヘキ肋板ハ副肋材ノ上部ニ於テ之ニ隔壁板ヲ固着シ得ヘキ深ト爲スヘシ

第三十四條 肋板中心線豎板及ヒ斷切内肋骨板ニハ塗水孔ヲ穿ツヘシ

第三十五條 船尾肋板ノ深ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル肋板ノ深ノ一、五倍以上ニシテ厚ハ其ノ厚ヨリ少カルヘカラス

第六章 副肋材

第三十六條 副肋材ハ正肋材及ヒ肋板毎ニ取附ケ其ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ

第三十七條 第一數四十五未満ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ彎曲上部迄達セシムヘシ

第一數四十五以上五十七未満ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト

彎曲部縱通材ノ上部迄トニ達セシムヘシ但船梁ヲ要スル船舶ニ於テハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト船梁ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

第一數五十七以上ノ船舶ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ但第一數七十五以上ノ帆船ニ於テハ總テ之ヲ重甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第三十八條 三層重甲板船ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ重甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

輕甲板船ニ於テハ副肋材ハ一本置ニ輕甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄トニ達セシムヘシ

覆甲板船ニ於テハ副肋材ヲ肋骨毎ニ正甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ上部迄達セシムヘシ

第三十九條 汽機室及ヒ汽罐室ニ於テハ肋骨毎ニ肋板ノ他面ニモ副肋材ヲ附シテ之ヲ彎曲上部迄達セシムヘシ

龍骨ノ上面ヨリ船梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ナルカ若ハ第二數一萬五千以上ノ船舶ニ於テハ増設副肋材ハ之ヲ彎曲部縱通材ヲ固着シ得ヘキ高迄達セシムヘシ又總テ内龍骨其ノ他縱通材ヲ取附クル部分ニハ肋材骨毎ニ副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ三箇以上ノ釘ヲ以テ肋骨ニ固着スヘシ

第四十條 副肋材ノ銜接ニハ覆山形材附シ其ノ兩邊ハ接合ノ前後ニ於テ各二箇以上ノ釘

釘ヲ以テ固着スヘシ

第四十一條 第二數二萬以上ノ船舶ニ於テハ船尾隔壁ノ後部ニ於ケル副肋材ハ總テ上甲板ノ梁上側板迄達セシメ且船尾突出部ノ形狀廣坦ナルトキハ適當ナル長ノ間上甲板ト正甲板トノ中央ニ於テ二枚合セノ山形材ヲ肋骨ニ取附ケ肘板ヲ以テ之ヲ船尾肋板ニ固着スヘシ

第七章 中心線内龍骨

第四十二條 單板内龍骨ノ堅板ノ寸法ハ第三號表ニ據リ其ノ両面上下ニハ同表ニ掲グル山形材ヲ取附ケ且中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ上端ニ附シタル山形材ニ冠板ヲ附著スヘシ其ノ幅ハ堅板ノ厚及ヒ其ノ上端ニ附シタル山形材ノ幅ノ和ニ等クシ其ノ厚ハ同表ニ據ルヘシ

堅板ノ接合ハ銜接ト爲シ鐵ナルトキハ堅板ノ厚ノ三分ノ二以上、鋼ナルトキハ堅板ノ厚ノ二分一ニ十分ノ三吋ヲ加ヘタル厚ヲ有スル二重覆板ヲ附シ三列固釘着ト爲スヘシ但之ヲ累接ト爲シ三列釘固着ト爲スモ妨ケナシ

冠板ノ銜接ハ上面ニ覆板ヲ附シ三列釘固着ト爲シ又山形材ノ銜接ハ覆山形材ヲ附シ其兩邊ハ接合ノ前後ニ於テ各三箇ノ絞釘ヲ以テ固着スヘシ

第二數三萬三千以上ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅十八吋厚十六分ノ十吋、鋼ナルトキハ幅十八吋厚二十分ノ十吋ヲ礎板ノ堅板ノ下ニ取附クヘシ

第四十三條 斷切板内龍骨ノ斷切板ハ第三號表ニ掲グル厚ト爲シ龍骨ヨリ肋板ノ上端迄

達セシメ第一號表ニ掲タル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ以テ之ヲ肋板毎ニ固着シ第四號表ニ掲クル正甲板梁ヨリ二吋深キ球板ヲ肋板ノ部分ニ於テ適當ニ取リ斷切板ニ固着シ得ヘキ處迄垂下セシメ第三號表ニ掲クル山形材ヲ肋板ノ上端 於テ球板ノ両側ニ固着スヘシ但斷切板ヲ山形材ノ上端迄達セシムルトキハ球板ヲ垂下セシムルヲ要ス

第四十四條 方形龍骨ヲ有シ第二數一萬三千以上一萬八千未満ノ船舶若ハ平板龍骨ヲ有シ第二數一萬三千以上一萬五千未満ノ船舶又ハ深ノ十倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ斷切板内龍骨ヲ用ウルトキハ堅板ヲ肋板ノ上面ニ設ケ之ヲ肋板ノ部分ニ於テ適當ニ切取リ肋板間ニ於テ斷切板ニ固著シ得ヘキ處迄垂下セシメ其ノ両面上下ニ山形材ヲ附シ之ニ冠板ヲ附著スヘシ其ノ堅板及ヒ冠板ハ第五號表ノ最上欄ニ掲グル梁上側板ト同厚ニシテ堅板ノ肋板上ノ深ハ其ノ両面上下ニ山形材ヲ附スルニ充分ナルヲ要ス

方形龍骨ヲ有シ第二數一萬八千以上ノ船舶若ハ平板龍骨ヲ有シ第二數一萬五千以上ノ船舶ニ於テハ堅板及ヒ冠板ノ厚ハ第三號表ニ掲グル單板内龍骨ノ堅板ニ等クシ深ハ其ノ深ノ四分ノ三ト爲スヘシ

第四十五條 貫通板内龍骨ヲ側板龍骨ニ附スルトキハ貫通板ハ其ノ厚ヲ斷切板ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋増シ之ヲ肋板ノ上端迄達セシメ且其ノ肋板ハ両面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ貫通板ニ固着スルノ外第二號表ニ掲クル龍骨翼板ト同厚ニシテ其ノ四分ノ三ノ幅ヲ有スル板ヲ肋板上ニ平置シ一重副肋材及ヒ貫通板ノ上端両面ニ附スル山形材ニ固着スヘシ

第二敷一萬五千以上一萬八千未満ノ船舶ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板深ト同寸法ノ球板ヲ平置板上ニ設ケ其ノ両面ニ第三號表ニ掲クル山形材ヲ取附ケ之ヲ平置板及ヒ二重副肋材ニ固着スヘシ但貫通板ヲ肋板ノ上端ヨリ上部ニ延長スルトキハ其ノ兩側ニ斷切板ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋多キ厚ト龍骨翼板ノ三分ノ一ニ締キ幅トキ有スル平置板ヲ設ケ之ヲ二重副肋材ニ固着シ且貫通板ノ両面ニ第三號表ニ掲クル山形材ヲ附シテ之ヲ平置板ニ固着スヘシ

第二敷一萬八千以上ナルトキハ肋板上貫通板ノ深ハ其ノ兩面上下ニ山形材ヲ附スルニ充分ナラシメ且山形材ノ上面ニハ貫通板ニ要スルモノト同厚ノ冠板ヲ固着スヘシ

第四十六條 平板龍骨ヲ有スル船舶ニ貫通板内龍骨ヲ設クルトキハ斷切板内龍骨ヲ設クルトキト同一構造ト爲スヘシ

第八章 彎曲部内龍骨及ヒ翼内龍骨

第四十七條 船底彎曲部ノ下部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル寸法ノ山形材ヲ二枚合セト爲シタル彎曲部内龍骨ヲ設クヘシ

第四十八條 第二敷一萬三千以上一萬五千未満ノ船舶ニハ中心線龍骨ト彎曲部内龍骨トノ大約中央ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル山形材ヲ二枚合セト爲シタル翼内龍骨ヲ設クヘシ

第二敷一萬五千以上ノ船舶ノ翼内龍骨ニハ肋板間ニ斷切板ヲ取附ケ之ヲ肋板上端迄達セシメ第二敷一萬一千七百未満ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅三吋ニ三吋厚十六分

ノ七吋、鋼ナルトキハ幅三吋ニ三吋厚二十分ノ七吋、第二敷二萬一千七百以上三萬四千未満ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋厚十分ノ九吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ九吋、第二敷三萬四百以上ノ船舶ニ於テハ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ十吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ十吋ノ山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固着シ且前項ニ掲ケタル二枚合セノ山形材間ニ斷切板ニ要スル者ト同厚ノ縱通板ヲ挿入レ之ヲ肋板上端下ニ垂下セシメテ斷切板ニ固着スヘシ但斷切板ヲ山形材ノ上端迄達セシムルトキハ縱通板ヲ挿入スルヲ要セス

第四十九條 翼内龍骨ニ斷切板ノ取附ヲ要セサル船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ第一號表ニ掲クル隔壁ノ上部ニ用ウヘキ板ト同厚ノ制水板ヲ設クヘシ

第九章 各内龍骨及ヒ船内縱通材ノ接合法等

第五十條 球板ヲ累接スルトキハ其ノ累接ノ幅ハ球板ノ二倍ト爲スヘシ

第五十一條 板及ヒ球板ノ衝接及ヒ累接ハ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外ニ列釘固着ト爲スヘシ

山形材ノ衝接、覆山形材ヲ附テ固着スヘシ但覆山形材ノ厚ハ接合スヘキ山形材ノ厚ニ等クシ其ノ長ハ二呎以上ト爲スヘシ

第五十二條 各内龍骨及ヒ船内縱通材ハ支水隔壁ヲ貫通シテ船ノ首尾ニ達セシメ其ノ隔壁ヲ貫通スル部分ハ水密ト爲スヘシ但船ノ首尾ニ於ケル船内縱通材ノ一本置ノ距離船ノ中央ニ於ケル各縱通材間ノ距離ヲ超エサルトキハ其ノ中間ノ縱通材船ノ首尾ニ達セ

シメサルモ妨ケナシ

第五十三條 各内龍骨及ヒ船内縦通材ノ山形材、船ノ中央ニ於テ鐵^レテ厚十六分ノ七吋ヲ超エ鋼ニテ厚二十分ノ七吋ヲ超ユルトキハ船ノ首尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ハ鐵ナルトキハ其ノ厚十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第十章 梁

第五十四條 梁ノ寸法ハ第四號表據ルヘシ但輕甲板船ノ船首樓、尾樓及ヒ船橋樓ノ梁ニハ該表中一段上欄ノ寸法ヲ使用スルコトヲ得

覆甲板及ヒ船首樓甲板ニ揚錨機ヲ備フル場合ニハ其ノ部分ニ於ケル深ハ第四號表ニ掲クル輕甲板梁ト同寸法ト爲スヘシ

第五十五條 各層ニ於ケル梁ハ上下相累テテ同一ノ肋骨ニ取附クヘシ

第五十六條 上甲板梁ノ梁矢ハ深ノ長一呎ニ付四分ノ一時以上ノ割合ト爲スヘシ

第五十七條 肋骨毎ニ附スヘキ鐵甲板及ヒ鋼甲板ノ梁ハ船ノ中央ニ於テ其ノ厚鐵梁ニテ十六分ノ八吋以上、鋼梁ニテ二十分ノ八吋以上ナルトキハ其ノ長中央ニ於ケル梁ノ四分ノ三未滿ナルモノニ限リ其ノ厚鐵梁ニ於テハ十六分ノ一時、鋼梁ニ於テハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第五十八條 球板及ヒ丁字形球材ノ幅ハ該板ノ厚ノ三、二倍球山形材ニ於テハ二、五倍ト爲スヘシ

第五十九條 船口ノ長、肋骨間ノ距離ノ六倍以上十倍以下ナルトキハ輕甲板及ヒ重甲板

ノ船口両梁ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同クシ又覆甲板及ヒ船橋樓甲板ノ船口端口梁ハ同表ニ掲クル輕甲板梁ト同一ナルヲ要ス

第六十條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ニ設クル水艙ノ頂板ニハ第四號表ニ掲クル船ノ首尾ニ用ウヘキ正甲板梁ト同寸法ノ梁ヲ肋骨毎ニ取附クヘシ

第六十一條 特設船梁ハ板ノ両面上下ニ山形材ヲ備フルモノ若ハ球板ノ上端両面ニ山形材ヲ備ヘ之ニ冠板ヲ附シタルモノ若ハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ六吋以上、鋼ナルトキハ厚二十分ノ六吋以上ニシテ肋骨間ノ距離ニ等キ幅ヲ有スル板ノ下面兩縁ニ山形材ヲ以テ球板ヲ附着シタル溝形ノモノナルヲ要ス但溝形梁ノ山形材及ヒ球板ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法トシ溝形梁ヲ除クノ外山形材ハ其ノ廣邊ヲ平ニ取附ケ又冠板ノ厚ハ第四號表ニ掲クル山形材ニ等クスヘシ

第六十二條 機關室内ニ用ウヘキ特設梁ハ板ノ両面上下ニ山形材ヲ備フルモノナルヲ要ス但輕甲板ニハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ノ球板ト同寸法ナル板ノ両面上下ニ山形材ヲ備フルモノヲ用ウルコトヲ得

第六十三條 梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ二、五倍又其ノ曲部ニ於ケル深ハ梁ノ深ノ一五倍ナルヲ要ス但帆船ニ於テ船ノ中央ニ於ケル上甲板梁ノ長三十六呎ヲ超ユルトキハ各層梁ノ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍又其ノ曲部ニ於ケル深ハ梁ノ深ニ其ノ四分ノ三ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

肘板ヲ以テ梁ヲ固着スルトキハ肘板ノ厚ハ梁ノ厚ト其ノ各枝ハ梁枝ノ深ト同一ナルヲ

要ス

覆甲板船ニ於テ船體ノ上端圓形ナルトキハ其ノ覆甲板梁ハ長十八吋以上正肋材ニ重テテ固着スヘシ

第六十四條 梁枝及ヒ肘板ヲ肋骨ニ固着スヘキ鉸釘ノ徑及ヒ數ハ左表ニ據ルヘシ但梁枝ノ深、梁ノ深ノ三倍ナルヲ要スルトキハ鉸釘ノ數ハ尙一箇ヲ増スヘシ

梁ノ深	鉸	
	徑	數
六吋以下	八分ノ六吋	四
八吋以下	八分ノ六吋	五
九吋半以下	八分ノ七吋	五
十吋半以下	八分ノ七吋	六
十吋半ヲ超ユルトキ	八分ノ七吋	七

第十一章 深ノ距離及艘内縦通材ノ配置

第六十五條 梁ノ距離及ヒ艘内縦通材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但正甲板梁ノ上面迄ノ深十七吋半未滿ノ覆甲板船ニ於テハ正甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六十六條 深十三吋未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨、甲板梁トノ大約中央ニ船ノ首尾ヲ通シテ山形材二枚合セノ縦通材ヲ設クヘシ

第六十七條 深十三吋以上十四吋未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ第六十六條ニ掲クル山形材ノ中間ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ又球板ノ代リニ板ヲ挿入シ山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固着スルモ妨ナシ

第六十八條 深十四吋以上十五吋半未滿ノ船舶ニ於テハ第六十七條ニ掲クル球板ノ代リニ鐵ナルトキハ幅十二吋厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅十二吋厚二十分ノ七吋ノ板ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固着シ且該板ノ線ノ両面ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材固着スヘシ

第六十九條 深十五吋半以上ノ船舶ニ於テハ第六十六條ニ規定シタル縦通材ノ外彎曲上部ニ第三號表ニ掲クル山形材二枚合セノ縦通材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ設クヘシ

第七十條 深十五吋半以上十六吋未滿ノ船舶ニ於テハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ク之ニ梁上側板ヲ取附ク該側板ハ之ヲ外板及ヒ副肋材ニ固着スルノ外撥形板ヲ以テ船梁毎ニ固着シ且船梁ノ間ニ於テハ肋骨一本置ニ肘板ヲ附シテ之ヲ支フヘシ

第七十一條 深十六吋半以上十七吋半未滿ノ船舶ニハ第七十條ニ規定スル装置ノ外梁上側板ノ内縁ニ第三號表ニ掲クル山形材ヲ固着スヘシ

第七十二條 深十七吋半以上十八吋未滿ノ船舶ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同

寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ又ハ第七十一條ニ規定スル装置ヲ爲スヘシ

第七十三條 深十八呎半以上十九呎半未満ノ船舶ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ又ハ特設船梁ヲ肋骨一本毎ニ設ケ梁上側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固着シ且其ノ山形材ノ外面ニハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ厚二十分ノ七吋ノ板ヲ固着スヘシ

第七十四條 深十九呎半以上二十九呎未満ノ帆船ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁若ハ正甲板梁ヲ肋骨一本毎ニ設クヘシ

第七十五條 深二十三呎以上二十四呎未満ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十六呎以上十七呎未満ナルトキハ該梁ト彎曲部内龍骨トノ間ニ船ノ首尾ヲ通シテ山形材ニ枚合セノ縦通材二條ヲ設クヘシ

第七十六條 深二十四呎以上二十六呎未満ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄深十七呎以上十八呎未満ナルトキハ第七十五條ニ掲クル各縦通材ノ山形材間ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ船ノ首尾ヲ通シテ挿入スヘシ

第七十七條 深二十六呎以上二十七呎未満ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深十八呎以上十九呎未満ナルトキハ第七十六條ニ掲クル上部ノ縦通材ニハ船ノ首尾ヲ通シテ又下部ノモノニハ船尾ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ヲ除キ第三號表ニ掲クル斷切板

ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固着スヘシ

第七十八條 深二十七呎以上二十八呎半未満ノ帆船ニシテ船梁若ハ正甲板梁ノ上面迄深十九呎以上二十呎半未満ナルトキハ該梁ト彎曲部内龍骨トノ間ニ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ト同寸法ノ板ヲ設ケ第三號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋材ニ固着シ肋骨一本毎ニ肘板ヲ以テ該板ヲ支ヘ其ノ内縁ニハ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ固着スルカ又ハ第七十七條ニ規定スル装置ニ更ニ同一ノ縦通材一條ヲ増設スルヲ要ス

第七十九條 深二十八呎半以上二十九呎半未満ノ帆船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十呎半以上二十一呎半未満ナルトキハ特設船梁ヲ肋骨一本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固着シ第七十八條ノ規定ニ依リ該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固着スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固着シ且其ノ山形材ノ外面ニ鐵ナルトキハ厚十六分ノ八吋、鋼ナルトキハ厚二十分ノ八吋ヲ板ヲ固着スルトキハ特設船梁ハ肋骨十二本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十條 第二數二萬四千以上二萬七千未満ノ帆船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ三分ノ二間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ翼内龍骨ニ取附ケ且中央部二分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ斷切板ヲ取附クヘシ

第二數二萬七千以上三萬三未満ナルトキハ中央部三分ノ二間ハ深ハ第三號表ニ掲クル

中心線單板内龍骨ノ堅板ノ二分ノ一ニシテ厚ハ之ニ等キ板ヲ翼内龍骨ニ取附ケテ其ノ上端両面ニ山形材ヲ固着シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表ニ掲クル上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材同寸法ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ト要ス且中央部二分ノ一間ハ彎曲部龍骨ニ斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第二數三萬以上三萬三千未滿ナルトキハ中央部三分ノ二間ハ翼内龍骨ニ深ハ第三號表ニ掲クル中心線單板内龍骨ノ堅板ノ四分ノ三ニシテ厚ハ之ニ等キ板ヲ取附ケ其ノ上端両面ニ山形材ヲ固着シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表ニ掲クル上甲板ノ梁上側板ニ附スルモノト同寸法ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ト爲スヘシ且中央部三分ノ二間ハ彎曲部内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第八十一條 深十九尺半以上二十二尺未滿ノ瀛船ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁若ハ正甲板梁ヲ肋骨一本置ニ設クルカ又ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固着シ且第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ側板ノ内縁ニ固着スヘシ但側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ八吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ取附クルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十二條 深二十二尺以上二十三尺未滿ノ瀛船ニ於テハ第八十一條ニ規定スル裝置ノ外船梁ト彎曲部縱通材トノ間ニ第三號表ニ掲クル船内縱通材ニ用ウヘキ山形二枚合セト爲シ船ノ首尾ヲ通シテ固着スヘシ

第八十三條 深二十三尺以上二十四尺未滿ノ瀛船ニ於テハ各縱通材ノ山形材間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第四號表ニ掲クル正甲板梁ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第八十四條 深二十四尺以上二十六尺未滿ノ瀛船ニ於テハ第四號表ニ掲クル正甲板梁同寸法ノ船梁若ハ正甲板梁ヲ肋骨一本置ニ設クヘシ且該梁ノ上面迄ノ深十七尺以上十八尺未滿ナルトキハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固着シ第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材ヲ該側板ノ内縁ニ固着スヘシ

第八十五條 深二十六尺二十七尺未滿ノ瀛船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十八尺以上十九尺未滿ナルトキハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本毎ト四本毎トニ設クルカ若ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固着シ且該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固着スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅三吋半ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固着シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ七吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固着スルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十六條 深二十七尺以上二十八尺未滿ノ瀛船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十九尺以上二十尺未滿ナルトキハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ交互ニ肋骨二本

毎ト四本毎トニ設クルカ若ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板固着シ且該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固着スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚十六分ノ七吋、鋼ナルトキハ幅四吋ニ三吋半厚二十分ノ七吋ノ山形材ヲ固着シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ八吋、鋼ニテ厚二十分ノ八吋ノ板ヲ固着スルトキハ特設船梁ノ肋骨十本毎ニ設クルモ妨ナシ

第八十七條 深二十八呎以上三十呎未満ノ汽船ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十呎二十呎未満ナルトキハ第四號表ニ掲クル正甲板梁ト同寸法ノ船梁ヲ肋骨一本置ニ設クルカ若ハ特設船梁ヲ肋骨八本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固着シ且該側板ノ内縁ニ山形材ヲ固着スヘシ但該側板ノ内縁ノ上下ニ鐵ナルトキハ幅四吋ニ四吋厚十六分ノ八吋、鋼ナルトキハ幅四吋ニ四吋厚二十分ノ八吋ノ山形材ヲ固着シ其ノ山形材ノ外面ニ鐵ニテ厚十六分ノ九吋鋼ニテ厚二十分ノ九吋ノ板ヲ固着スルトキハ特設船梁ハ肋骨十本毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第八十八條 深三十呎以上三十二呎半未満ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十二呎以上二十四呎未満ノ汽船ニ於テハ第八十七條ニ規定スル裝置ノ外第三號表ニ掲クル内龍骨山形材ト同寸法ノ二枚合セ山形材間ニ球板ヲ挿入シタル縦通材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ船梁ト彎曲部縦通材トノ大約中央ニ設ケヘシ

第八十九條 深三十二呎半以上三十六呎未満ノ汽船ニシテ下甲板梁若ハ船梁ノ上面迄ノ深十七呎半以上二十一呎未満ナルトキハ該梁ノ下部ニ厚ハ下甲板ノ梁上側板ト同ク幅

ハ其ノ四分ノ三ニ等キ船内縦通側板ヲ設ケ第三號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋材ニ固着シ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ該側板ヲ支ヘ且其ノ内縁ニハ山形材ヲ附着スヘシ

第九十條 深三十六呎以上三十九呎未満ノ汽船ニシテ下甲板梁ノ上面迄ノ深二十一呎以上ナトキハ特設船梁ヲ肋骨十本毎ニ設ケ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固着シ且該側板ノ内縁ニハ山形材ヲ固着スヘシ

第九十一條 上層梁ノ上面ヨリ下層梁ノ上面迄ノ距離ハ各八呎ヲ超ユヘカラス

第九十二條 梁ノ距離肋骨間ノ距離ノ二倍ヲ超ユルトキハ梁間ノ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ梁上側板ヲ支フヘシ但肘板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル正肋材ノ厚ニ等クスヘシ

第九十三條 梁上ニ甲板ヲ張ルトキハ前數條ノ規定ニ拘ラス梁ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍ヲ超ユヘカラス

鐵甲板ノ厚十六分ノ六吋以下、鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋以下ニシテ之ニ木板ヲ張テサル場合ニ於テハ船口兩端ノ梁ヲ除キ第四號表ニ掲クル山形梁又ハ球山形梁ヲ肋骨毎ニ取附クヘシ但鐵甲板ノ厚十六分ノ六吋ヲ超ユ鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋ヲ超ユルトキニ於テモ半梁ニハ同表ニ掲クル山形材又ハ球山形材ヲ用キ肋骨毎ニ之ヲ固着スヘシ

第九十四條 船口、汽機室又ハ汽鐘室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ特設船梁若ハ特設肋骨ヲ以テ該部ヲ補強スヘシ

第十二章 特設肋骨

第九十五條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ヲ以テ梁及ヒ縱通材ニ代用スルトキハ特設肋骨ノ幅並ニ距離及ヒ特設肋骨間側板ノ數ハ龍骨ノ上面ヨリ特設肋骨ヲ達セシムル甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ定ムヘシ

第九十六條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル正肋材ト同一ナルヲ要ス

第九十七條 特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ノ内縁ノ両面ニ附スル山形材ノ寸法、特設肋骨間側板ヲ特設肋骨、外板及ヒ副肋材ニ固着スル山形材ノ寸法ハ第一號表ニ掲クルル副肋材ト同一ナルヲ要ス

二重底ノ部分ニ於テハ特設肋骨ハ其ノ兩側ハ山形材ヲ附シテ縁板ニ固着スルカ若ハ撥形板ヲ以テ内底板ニ固着スヘシ

第九十八條 特設肋骨間側板ノ内縁ニ固着スル山形材ハ特設肋骨毎ニ龜甲形板ヲ以テ結續スヘシ但其ノ厚ハ特設肋骨ニ等クシ且幅及ヒ深ハ特設肋骨ノ幅ニ從ヒ左表ニ據リ之ヲ定ムヘシ

特設肋骨ノ幅	幅	形	深	板
十四吋以下	二十四吋	十	八	吋

十五吋以下	三	十	吋	二十	一	吋
十五吋ヲ超ユルトキ	三	十	吋	二十	四	吋

第九十九條 特設肋骨ノ上端ニ取附クヘキ梁ノ深ハ第四號表ニ掲クル特設船梁ニ等クスヘシ但該梁ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ルトキハ普通梁ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍ト爲スヘシ

深二十三呎以上ノ船舶ニ於テ特設肋骨ヲ上甲板若ハ低船尾樓甲板ノ梁上側板迄達セシムルトキハ特設肋骨ノ上端ニ取附クヘキ梁ノ梁枝ノ深ハ梁ノ深ノ三倍ト爲スヘシ

第一百條 特設肋骨間側板ハ其ノ幅十八吋ニシテ特設肋骨間ノ距離八呎ヲ超ユルトキハ特設肋骨間ノ中央ニ於テ第一號表ニ掲クル正肋材ニ等キ厚ノ肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ

第一百一條 特設肋骨ヲ正甲板以下ニ設クルトキハ其ノ間ニ於ケル副肋材ハ肋骨一本置ニ上甲板ノ梁上側板迄ト正甲板ノ梁上側板迄トニ達セシムヘシ又特設肋骨ノ上甲板迄達セシムルトキハ副肋材ハ肋骨毎ニ上甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

第一百二條 深十五呎半以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ幅十四吋及深十六呎以上十七呎未滿ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ設ケ且其ノ間ニ於テ彎曲部縱通材ノ上部ニ特設肋骨間側板一條ヲ取附ケ山形材及ヒ龜甲形板ヲ以テ之ヲ特設肋骨ニ固着スヘシ

第一百三條 深十七呎以上十八呎未滿ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ

設ケ特設肋骨間側板二條ヲ取附クヘシ但此ノ場合ニ於テハ彎曲部縱通知ヲ取附ケザルモ妨ナシ

覆甲板船ヲ除キ三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ肋骨六本毎ニ設クルヲ要ス

第四百四條 深十八呎以上二十一呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十五呎ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板二條ヲ取附クヘシ

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深十八呎以上二十一呎半未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八呎ナルヲ要ス但覆甲板船ニ於テハ其ノ幅ヲ十六吋ト爲ストテ得

第四百五條 深二十一呎半以上二十二呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十五吋ノ特設肋骨ヲ肋骨

六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ但二重底ヲ備フル船舶ニ於テ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ用ウルトキハ特設肋骨間側板ヲ二條ニ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二重底緣板ノ外部ニ附スル肘板ハ總テ彎曲部ニ於テ船ノ中央ニ用ウヘキ肋板ノ深ノ三倍ノ高迄達セシムルヲ要ス

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十一呎半以上二十二呎半未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ト爲シ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ但覆甲板船ニ於テハ特設肋骨ノ幅ヲ十六吋ト爲スコトヲ得

第四百六條 深二十二呎半以上二十三呎半未満ノ船舶ニ於テハ幅十六吋ノ特設肋骨ヲ肋骨

六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ

三層以上ノ梁ヲ備フヘキ船舶ニシテ正甲板梁ノ上面迄ノ深二十二呎半以上二十三呎半未満ナルトキハ正甲板以下ニ附スル特設肋骨ハ幅十八吋ト爲スヲ要ス但覆甲板船ニ於テハ其ノ幅ヲ十六吋ト爲スコトヲ得

第四百七條 深二十三呎半以上二十四呎未満ノ船舶ニ於テハ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附クヘシ

第四百八條 龍骨ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深二十四呎以上二十六呎未満ノ船舶ノ低船尾樓ノ部分ニ於テハ幅十六吋ノ特設肋骨ヲ肋骨五本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ケ板ノ両面上下ニ山形材ヲ附シタル特設船梁四本ヲ特設肋骨間側板ニ要スル厚ノ撥形板及ヒ肘板ヲ以テ特設肋骨間側板ノ一條及ヒ特設肋骨ニ固着シ且汽機室後端ノ隔壁ト船尾隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設スヘシ

第四百九條 低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深二十六呎以上二十八呎未満ノ船舶ノ低船尾樓ノ部分ニ於テハ幅十八吋ノ特設肋骨ヲ肋骨四本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ケ且第八條ノ規定ニ依リ四本以上ノ特設船梁及ヒ増設支水壁隔ヲ取附クヘシ但深十七呎以上ナルトキハ特設肋骨間側板ハ四條ト爲スヘシ

第四百十條 汽機室及ヒ汽鐘室ニ於テ第三十九條ノ規定ニ依リ増設副材ヲ彎曲上部ニ附スル縦通材ノ高迄達セシムルヲ得サルトキハ二重底ノ部分ヲ除キ第二條一萬五千以上三萬未満ノ船舶ニ於テハ十呎以内ノ距離ニ又第二條三萬以上ナルトキハ八呎以内ノ距離

ニ於テ前數條ニ規定シタル特設肋骨ヲ設ケ其ノ下部ハ肋板ニ固着シ上部ハ重甲板若ハ輕甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

特設肋骨ハ成ルヘク甲板梁ノ位置ニ設ケ若梁ノ中間ニ設クルトキハ梁上側板ノ上下ニ於テ肘板ヲ以テ之ヲ固着スヘシ

特設肋骨ニ縦通材ヲ貫通スルトキハ其ノ部分ニ適當ノ補強構造ヲ加フヘシ

第十三章 梁柱

第百十一條 梁柱ハ第一號表ニ據ニ其ノ寸法ヲ定メ二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ其ノ兩端ヲ固着スヘシ但三層以上ノ梁ヲ有スル船舶ニ於テハ梁間ニ附スヘキ梁柱ノ徑ハ其ノ上下梁柱ノ徑ノ平均ノ寸法ト爲スヘシ

第百十二條 梁ノ長上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁柱ヲ取附ケ上層梁ニ梁柱ノ設テ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

肋骨毎ニ梁ヲ取附ケタルトキハ梁ノ下部ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ二枚合セ山形材若ハ之ト同一ノ強力材ヲ有スル丁字形材ヲ附シ山形材ヲ以テ梁毎ニ固着シア梁一本置ニ梁柱ヲ取附クヘシ但二枚合セ山形材若ハ丁字形材ハ艙口梁其ノ他深キ梁及隔壁ニ於テ之ヲ止メ山形材ヲ以テ固着スヘシ

艙口縁材ニ取附クヘキ梁柱ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ四倍ヲ超ユヘカラス且長二十六呎以上ノ艙口ニハ其ノ四隅ニ梁柱ヲ取附クヘシ又甲板室斜檣揚機錨及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第百十三條 帆船ニ於テハ艙ノ中央ニ於ケル幅三十九呎ヲ超ユ四十三呎未滿ナルトキハ上甲板梁ヲ除クノ外下層ノ梁ニハ中央部ニ於テ艙ノ長ノ二分ノ一間ハ梁一本置ニ中心線梁柱ノ兩側ニ梁柱ヲ増設シ幅四十三呎以上ナルトキハ上甲板梁ニモ一本置ニ兩側梁柱ヲ取附クヘシ

第百十四條 汽船ニ於テハ幅四十三呎以上五十五呎未滿ナルトキハ中央部ニ於テ艙ノ長ノ四分ノ三間ハ梁一本置ニ幅五十五呎以上ナルトキハ梁毎ニ中心線ノ梁柱ノ兩側ニ梁柱ヲ増設スヘシ但幅五十呎未滿ノ汽船ニ於テハ甲板間ヲ旅客室ニ専用スルトキハ其ノ上下甲板梁ニハ兩側梁柱ヲ取附ケサルモ妨ナシ

第百十五條 二層ノ梁ヲ有シ又ハ一層ノ梁ト特設肋骨トヲ有スル船舶ニ於テ上甲板梁ヨリ内龍骨ニ達スヘキ梁柱三層ノ梁ヲ有シ又ハ二層ノ梁ト特設肋骨トヲ有スル船舶ニ於テ中層梁ヨリ内龍骨ニ達スヘキ梁柱及ヒ艙内ノ深二十二呎以上ノ帆船ニ用ウヘキ艙内梁柱ハ第一號表ニ掲クル艙内梁柱ノ徑ニ八分ノ三吋ヲ増シ又三層ノ梁ヲ要スル船舶ニ於テ上甲板梁ヨリ艙底ニ達スヘキ梁柱ハ同表ニ掲クル艙内梁柱ノ徑ニ四分ノ三吋ヲ増スヘシ

仕切板ヲ取附クル爲メニ梁柱ヲ二列ニ設クルトキハ其ノ徑ハ第一號表ニ掲クル梁柱ノ徑ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第十四章 梁上側板

第百十六條 梁上側板ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ艙ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ

於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ減
シ船ノ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

第五號表ニ掲クル主要梁上側板ノ寸法ハ一層及ヒ二層重甲板船ノ重甲板梁三層甲板船
ノ重甲板梁及ヒ正甲板梁輕甲板船及ヒ覆甲板船ノ正甲板梁ニ附スヘキモノ、寸法トス
但輕甲板船ニ於テハ船ノ長ト正甲板梁ノ上面迄ノ深トノ割合ヨリ二テ減シタルモノヲ
以テ表中ノ長ト深トノ割合ニ充ツヘシ又二層重甲板船ノ正甲板ノ梁上側板ニハ同表ニ
掲クル下甲板ノ梁上側板ノ寸法ヲ用ウヘシ

下甲板下ノ甲板梁ニ附スノキ梁上側板ノ厚ハ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ニ等ク
シ幅ハ其ノ四分ノ三ト爲スヘシ

第百十七條 輕甲板ノ梁上側板ノ幅ハ第五號表ノ最上欄ニ掲クル正甲板ノ梁上側板ニ等
クスヘシ但中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ鐵ナルトキハ厚十六分ノ一時鋼ナルト
キハ厚二十分ノ一時ヲ減シ又其ノ兩端ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時鋼ナルトキ
ハ二十分ノ一時ヲ尙減スルコトヲ得

第百十八條 覆甲板ノ梁上側板ノ幅ハ第五號表ニ掲クル船梁ノ梁上側板ニ等クシ厚ハ左
表ニ據ルヘシ

第 二 數	梁 上 側 板	
	鐵	鋼
一 萬 三 千 未 滿	十 六 分 ノ 六 吋	二 十 分 ノ 六 吋

一 萬 三 千 以 上 一 萬 八 千 未 滿	十 六 分 ノ 七 吋	二 十 分 ノ 七 吋
一 萬 八 千 以 上 二 萬 四 千 未 滿	十 六 分 ノ 七 吋	二 十 分 ノ 八 吋
二 萬 四 千 以 上 三 萬 一 千 未 滿	十 六 分 ノ 八 吋	二 十 分 ノ 九 吋

第二數三萬一千以上ノ船舶若ハ正甲板梁ノ上面迄ノ深ノ十三倍ヲ超ユル長ヲ有スル船
船ニハ正甲板以上ニ於テ縱強力ヲ増スヘキ構造ヲ爲スヘシ

第百十九條 船ノ全長又ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張リ
タメ甲板梁ノ梁上側板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於テハ船ノ長七呎ニ付一時
ノ割合迄ニ其ノ幅ヲ減スルコトヲ得但此ノ規程ニ依リ二層以上ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ
要スルモノニ於テハ之ヲ減スルコトヲ得ス

第百二十條 梁上側板ノ銜接ハ第十八章ニ規定スルモノヲ除クノ外二列釘固着ト爲スヘ
シ

梁上側板ヲ外板及ヒ副肋材ニ固着スヘキ山形材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ
正甲板ノ梁上側板ヲ副肋材ニ固着スル縦通山形材ト外板ノ間ハ水密ト爲スヘシ

第十五章 梁上帶板

第百二十一條 梁上帶板ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後
ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ

減シ船ノ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ但輕甲板及ヒ覆甲板ノ梁上帶板ノ厚ハ其ノ梁上側板ニ要スルモノニ等クスヘシ

第二百二十二條 梁ノ距離肋骨間ノ距離ノ四倍以内ニシテ之ニ甲板ヲ張ラス又ハ帶板ヲ取附ケサルトキハ帶板ノ代リ第三號表ニ掲クル下甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ト同寸法ノ山形材二條ヲ船ノ首尾ヲ通シテ中心線若ハ艙口ノ兩側ノ位置ニ設クヘシ

第二百二十三條 帆船ニハ檣ヲ契止メト爲スヘキ甲板ニ檣ノ近傍ニ於テ船ノ中央部ニ要スル梁上帶板ト同寸法ノ斜帶板取附ク之ヲ梁縱通帶板及ヒ梁上側板ニ固著スヘシ但第二數一萬五千以上ノモノニ於テハ上甲板ノ斜帶板ハ船ノ首尾ヲ通シテ取附クヘシ

第二百二十四條 梁上帶板ノ横縁ハ二列釘固着ト爲スヘシ

第十六章 船首肘板、船尾肘板及ヒ船首防撓構造

第二百二十五條 縱通材ノ兩端ハ第一號表ニ掲クル船ノ中央ニ於ケル肋板ノ厚ニ等キ肘板ヲ以テ之ヲ結續シ艙梁ノ下部ニ於テハ大約四呎ノ距離ニ肘板ヲ附シ又第二數二萬四千以上ノ船舶ニ於テハ各層梁間ノ中央ニ於テ船ノ首尾兩端ニ肘板ヲ設クヘシ肘板ノ銜接ハ二列釘固着ト爲スヘシ

第二百二十六條 船首隔壁ノ前部ニ於テ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁ノ層數ハ船首隔壁ニ於テ測リタル深ニ依リ第十一號ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ

船首隔壁ノ前後ニハ梁ヲ増設シ之ニ梁上側板ヲ取附ケ該側板ハ船ノ幅ノ四分ノ一ニ等キ長ノ間船首隔壁ノ後部ニ延長シテ之ヲ外板ニ固着シ且肘板ヲ以テ肋骨一本置ニ之ヲ

支フヘシ

第十七章 外板

第二百二十七條 外板ノ寸法ハ第二號表ニ據リ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時ツ、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ツ、漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

覆甲板船ノ上端圓形ナル部分ニ於ケル外板ノ厚及ヒ山形材ハ覆甲板ノ梁上側板ニ要スルモノニ等クスヘシ

螺旋槳船ニ於テ船尾材ニ固着スヘキ龍骨翼板及ヒ第二數一萬六千六百以上ノ船舶ニ於テ船尾材ニ固着スヘキ外板ハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ト同一ト爲スヘシ

帆船ノ船首部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ニ於ケル外層外板ハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヨリ多ク其ノ厚ヲ減スルコトヲ得ス且第二數一萬六千以上ナルトキハ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚ハ船ノ首尾ヲ通シテ鐵ナルトキハ十六分ノ一時鋼ナルトキハ二十分ノ一時増シ又第二數二萬二千以上ナルトキハ艙梁ヲ取附クル部分ノ外板一條ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ其ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六分ノ一時鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ尙増スヘシ

第二號表ニ於テ外板ノ厚ニ様アルトキハ其ノ厚キモノヲ外層外板ニ薄キモノヲ内層外板ニ適用スヘシ

外板ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外肋骨間ノ距離ノ六倍以上ナルヲ要ス

第二百二十八條 第二敷四千二百以上五千百未滿六千以上六千九百未滿及七千七百以上八千五百未滿ノ鋼製汽船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部ニ於ケル外板一條ノ厚二十分ノ一吋ヲ増スヘシ

第二百二十九條 第二敷九千三百以上一萬百未滿一萬九百以上一萬一千六百未滿一萬二千四百以上一萬三千百未滿一萬三千九百以上一萬四千七百未滿一萬五千六百以上一萬六千六百未滿一萬七千六百以上一萬八千七百未滿一萬九千九百以上二萬一千三百未滿及二萬二千九百以上二萬四千六百未滿ノ鋼製汽船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部ニ於ケル外板二條ノ厚二十分ノ一吋ヲ増スヘシ

第三百十條 第二敷二萬六千五百以上二萬八千七百未滿三萬一千二百以上三萬三千九百未滿三萬六千八百以上四萬未滿四萬三千四百以上四萬七千七百未滿五萬一千以上五萬五千二百未滿及五萬九千七百以上六萬四千六百未滿ノ鋼製汽船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部ニ於ケル外板三條ノ厚二十分ノ一吋ヲ増スヘシ

第三百十一條 上下ニ鄰接スル外板ノ横線ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍以上ト爲スヘシ但一條ヲ隔テタルトキハ肋骨間ノ距離迄ニ減スルコトヲ得
舷側厚板若ハ輕甲板舷側板ノ横線ト之ニ附スル梁上側板ノ衝接トノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍ト爲スヘシ
兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ横線ノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ二倍以上ト爲シ且龍骨ノ嵌接ト之ヲ隔離スルヲ要ス

第三百十二條 舷側厚板及ヒ輕甲板舷側板ハ其ノ厚ニ拘ラス又龍骨ヨリ彎曲上部ニ至ル間ノ外板ハ船ノ中央ニ於テ鐵ニテ厚十六分ノ七吋以上鋼ニテ厚二十分ノ七吋以上ナルトキ及ヒ彎曲上部ヨリ上部ノ外板ハ船ノ中央ニテ鐵ニテ厚十六分ノ九吋以上鋼ニテ厚二十分ノ九吋以上ナルトキハ其ノ縦線ハ船ノ首尾ヲ通シテ二列釘固着ト爲スヘシ但之ヨリ薄キ板ハ一列釘固着ト爲スコトヲ得

第三百十三條 第十八章ニ規定スル場合ヲ除キ外板ノ横線及ヒ外板ヲ船首材船尾材及ヒ龍骨ニ固着スルニハ二列釘ヲ用ウヘシ

第三百十四條 外板ノ横線ヲ累接ト爲ストキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル累接ノ幅及ヒ釘徑等ハ第七號表ニ據ルヘシ

前項ノ累接ハ第二敷一萬六千未滿ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間又第二敷一萬六千以上ナルトキハ船ノ首尾ヲ通シテ三列釘固着ト爲スヘシ

第三百十五條 輕甲板舷側及ヒ重甲板ノ舷側厚板ハ横線固着ノ爲ニ其ノ上側板ニ附シタル山形材ノ上部ニ於テ堅ニ二列ノ鉸釘ヲ受クルニ充分ナル高迄達セシムヘシ
中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ニ於テ輕甲板舷側板及ヒ舷側厚板ニ舷窓ヲ設クルトキハ該部分ヲ二重張ト爲スカ若ハ其ノ厚ヲ増スカ若ハ舷窓ノ上部ニ山形材ヲ附シテ補強スヘシ

輕甲板船ニ於テ正甲板ノ梁上板ヨリ舷側厚板ノ下緣迄ノ深ハ舷側厚板ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユヘカラス

第三百三十六條 螺旋軸管ノ覆外板ノ厚ハ第二數一萬三千九百未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ等シク第二數一萬三千九百以上一萬八千七百未滿ノモノニ於テハ鐵ナルトキハ之レニ十六分ノ一吋鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ増シ第二數一萬八千七百以上二萬六千五百未滿ノモノニ於テハ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ増シ且其ノ橫縁ヲ三列釘固着ト爲シ第二二萬六千五百以上ナルトキハ覆外板及ヒ其ノ上下ニ鄰接スル外板ノ厚ハ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ増シ且其ノ橫縁ハ二重覆板ヲ附シテ銜接ト爲シ若ハ累接ト爲シ三列釘固着ト爲スカ又ハ覆外板ヲ二重張ト爲スヘシ

第三百三十七條 舷牆板ニハ六呎以内ノ距離ニ坐板ヲ附シテ之レニ支柱ヲ取附クヘシ又舷牆板ノ覆板ニ支柱ヲ取附クルトキハ覆板ノ幅ハ支柱ヲ取附クルニ充分ナルモノト爲スヘシ但シ第二數二萬三千四百以上ノ帆船ニ於テハ支柱ノ距離ハ五呎ヲ超ユヘカラズ
支柱ノ徑ハ船舶ノ大小及ヒ支柱ノ長ニ應シ一吋八分ノ三乃至二吋ト爲スヘシ但シ舷牆ニ載貨門ヲ設クルトキハ其ノ兩側ニ於ケル支柱ノ強ヲ増スヘシ

第十八章 覆及ヒ填板

第三百三十八條 覆板ノ幅ハ第七號表ニ據リ其ノ厚ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ少カルヘカラズ但鐵ナルトキハ其ノ纖維ハ接合スヘキ板ノ纖維ト並行スヘキ様取附クヘシ
梁上側板及ヒ外板ノ銜接ニ二重覆板ヲ附スルトキハ其ノ厚ハ左表ニ依ルヘシ

接合スヘキ板ノ厚		埋頭釘孔ヲ穿ツヘキ覆板		他面ニ附スヘキ覆板	
鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼
十六分ノ九吋	二十分ノ九吋	十六分ノ七吋	二十分ノ七吋	十六分ノ六吋	二十分ノ六吋
十六分ノ十吋	二十分ノ十吋	十六分ノ八吋	二十分ノ八吋	十六分ノ六吋	二十分ノ六吋
十六分ノ十一吋	二十分ノ十一吋	十六分ノ八吋	二十分ノ八吋	十六分ノ七吋	二十分ノ七吋
十六分ノ十二吋	二十分ノ十二吋	十六分ノ九吋	二十分ノ九吋	十六分ノ七吋	二十分ノ七吋
十六分ノ十三吋	二十分ノ十三吋	十六分ノ十吋	二十分ノ十吋	十六分ノ八吋	二十分ノ八吋
十六分ノ十四吋	二十分ノ十四吋	十六分ノ十吋	二十分ノ十吋	十六分ノ九吋	二十分ノ九吋
十六分ノ十五吋	二十分ノ十五吋	十六分ノ十一吋	二十分ノ十一吋	十六分ノ九吋	二十分ノ九吋
一吋	二十分ノ十六吋	十六分ノ十二吋	二十分ノ十二吋	十六分ノ十吋	二十分ノ十吋

第三百三十九條 第二數八千以下ノ船舶ニ於テ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板一條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ一吋、鋼ナルトキハ二十分ノ一吋ヲ増シタル厚ト

爲シ二列釘固着ト爲スヘシ

第百四十條 第二數八千ヲ超エ一萬三千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板舷側板、梁上側板及ヒ彎曲部外板二條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十一條 第二數一萬三千ヲ超エ一萬六千以下ノ鋼船ニ於テハ百四十條ノ規定ノ外中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間彎曲部外板一條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ外板ノ厚ヨリ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十二條 第二數一萬三千ヲ超エ一萬七千以下ノ鐵船ニ於テハ第百四十條ノ規定ノ外中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ尙彎曲部外板一條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ外板ノ厚ヨリ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十三條 第二數一萬六千ヲ超エ二萬以下ノ鋼船ニ於テハ第百四十一條ノ規定ノ外中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外層外板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ總テ外板ノ厚ハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十四條 第二數一萬七千ヲ超エ二萬四千以下ノ鐵船ニ於テハ第百四十二條ノ規定ノ外中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ尙彎曲部外板一條ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ外板ノ厚ヨリ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十五條 第二數二萬ヲ超エ二萬四千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二

分ノ一間外板ノ銜接重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ三時ヲ増シタル厚ト爲シテ三列釘固着ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲スヘシ

第百四十六條 第二數二萬四千ヲ超エ二萬八千以下ノ鐵船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側厚板、輕甲板、舷側板、彎曲部外板四條其ノ他ノ外層外板及ヒ重甲板並ニ正甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十七條 第二數二萬四千ヲ超エ二萬八千以下ノ鋼船ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間外板並ニ重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ四時其ノ前後ニ於テハ二十分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ中央部ニ於ケル船ノ長ノ四分ノ三間ニ於テハ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十八條 第二數二萬八千ヲ超エ三萬三千以下ノ鐵船ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ銜接重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ一時ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百四十九條 第二數三萬三千ヲ超エ四萬以下ノ鐵船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ外板ノ銜接、重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十六分ノ二時ヲ増シタル厚ト爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ三分ノ二間ハ三列釘固着ト爲スヘシ

第百五十條 第二敷二萬八千ヲ超ユル鋼船ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ外板ノ銜接、重甲板及ヒ正甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ二十分ノ四吋其ノ前後ニ於テハ二十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ船ノ首尾ヲ通シテ三列釘固着ト爲スヘシ

第百五十一條 幅四十吋以上四十六吋以下ノ外層外板又ハ幅四十八吋以上五十四吋以下ノ内層外板ノ銜接ハ外板ノ厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ覆板ヲ附シ三列釘固着ト爲スヘシ

第百五十二條 三層重甲板船ニ於ケル舷側厚板、重甲板ノ梁上側板正甲板ノ梁上側板並ニ彎曲部外板三條ノ銜接及ヒ輕甲板船ニ於ケル輕甲板舷側板、舷側厚板、輕甲板ノ梁上側板、正甲板ノ梁上側板並ニ彎曲部外板三條ノ銜接ハ前敷條ノ規定ニ該當セザルトキト雖モ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ三列釘固着ト爲スヘシ

第百五十三條 外板ヲ二重張ト爲ストキハ其ノ内外板トモ銜接ニハ覆板ヲ附シテ前敷條ノ規定ニ從ヒ二列釘又ハ三列釘ヲ以テ之ヲ固着シ且内外板トモ肋骨ニ固着スルノ外肋骨間ノ中央及ヒ縱線ニ於テ相互ニ固着スヘシ

第百五十四條 平板龍骨ノ銜接ニ用ウヘキ覆板ノ厚ハ彎曲部外板ノ覆板ノ厚ニ要スル割合ヲ以テ平板龍骨ノ厚ヨリ之ヲ増スヘシ

第百五十五條 外層外板ト正肋材トノ間隙ニハ正肋材ト同幅ノ填板ヲ附スヘシ但支水隔壁ノ部分ニ終テハ其ノ前後ニ於ケル肋骨迄之ヲ延長セシムヘシ

第十九章 鉸釘

第百五十六條 鉸釘ノ徑ハ第七號表ニ據リ固着スヘキ板又ハ山形材ノ厚キモノヲ表中ノ板ノ厚ニ充テ之ヲ定ムヘシ但梁上側板及ヒ梁上帶板鐵ニテ厚十六分ノ十吋以上鋼ニテ厚二十分ノ十吋以上ナルトキハ梁ニ固着スヘキ鉸釘ノ徑ハ總テ四分ノ三吋ト爲スヘシ外板ヲ船首材、船尾材及ヒ龍骨ニ固着スヘキ鉸釘ノ徑ハ外板ノ厚ニ依リテ定メタルモノニ四分ノ一時ヲ増スヘシ但一時四分ノ一時超ユルヲ要セス

第百五十七條 外板ヲ船首材船尾材及ヒ龍骨ニ固着スル場合ヲ除クノ外二列以上ノ鉸釘ヲ要スル接合ニ於テハ鉸釘ノ配置ハ並列法ヲ用ウヘシ

第百五十八條 總テ板ノ縱線ノ固着ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ三倍ト爲スヘシ又三列釘ヲ用ウル場合ニハ銜接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但鋼板ニ於テハ第二敷二萬ヲ超ユルトキハ終列ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五二五倍ヲ超ユルコトヲ許サス

鉸釘ハ固着スヘキ板若ハ山形材等ノ縁ヲ距ルコト釘徑以上又外板ノ縱線ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二、五倍ト爲スヘシ

第百五十九條 鉸釘ノ心距ハ外板ノ縱線、輕甲板、重甲板及ヒ正甲板梁上側板ノ銜接ニ於テハ鐵ナルトキハ釘徑ノ四倍、鋼ナルトキハ三、五倍、鐵甲板若ハ鋼甲板ノ縱線、内底板ノ接合及ヒ縱通桁板ノ銜接ニ於テハ釘徑ノ四倍、外板ノ縱線、上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ固着、鐵甲板若ハ鋼甲板ノ縱線ノ固着等ニ於テハ釘徑ノ四、五倍ヲ

起ユヘカラフ但龍骨、船首材及ヒ船尾材ト外板トノ固着及ヒ内龍骨板ト平板龍骨トノ固着ニ於ケル山形材ニ於テハ鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍又内龍骨、肋板、正肋材、副肋材等ノ固着、外板ト正肋材トノ固着及ヒ梁用山形材ト梁板トノ固着ニ於テハ鐵ナルトキハ釘徑ノ八倍鋼ナルトキハ釘徑ノ七倍、鐵甲板若ハ鋼甲板及ヒ梁上側板ト梁トノ固着ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ八倍ト爲スコトヲ得

第百六十條 肋骨間ノ距離二十三吋以上ノ船舶ニ於テハ梁上側板、斷切板等ヲ外板ニ固着スヘシ山形材ノ兩邊ニハ肋骨間ニ於テ各四箇ノ鉸釘ヲ要スト雖モ肋骨間ノ距離二十三吋未滿ナルトキハ釘數ヲ三箇ニ減スルコトヲ得

第六十一條 舵板ヲ龍骨ニ固着スヘキ鉸釘ノ徑ハ船ノ中央部ニ於テ龍骨翼板ト其ノ鄰接外板トノ固着ニ要スル鉸釘ニ等クシ又鉸釘ノ心距ニ釘徑ノ五倍ヲ超ユヘカラス

第二十章 支水隔壁

第百六十二條 汽船ニハ首尾及ヒ機關室前後ニ支水隔壁ヲ設クヘシ

船首隔壁、正甲板ニ於テ船首材ヲ距ルコト船ノ幅ノ二分ノ一ヨリ少カラサル所ニ設ケ之ヲ上甲板迄達センム、シ

機關室前後ノ隔壁及ヒ船尾隔壁ハ上甲板迄達セシムヘシ但覆甲板船ニ於テハ正甲板ニ止ムルコトヲ得

第百六十三條 長二百八十呎以上ノ汽船ニ於テハ船首隔壁ト機關室前端隔トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設シ之ヲ上甲板迄達セシムヘシ但覆甲板船ニ於テハ正甲板ニ止ムルコトヲ得

トヲ得

長三百三十呎以上ノ汽船ニ於テハ前項ニ掲ケタル隔壁ノ外更ニ船尾隔壁ト機關室後端隔壁トノ大約中央ニ支水隔壁ヲ増設シ之ヲ前項ノ高ニ達セシムヘシ

第百六十四條 帆船ニ於テハ汽船ニ準シ船首隔壁ヲ設クヘシ

第百六十五條 船首隔壁ニハ塗水孔其ノ他戸口ヲ設クヘカラス

第百六十六條 支水隔壁板ノ厚ハ第一號表ニ據リ其ノ隔壁ハ船側ニ於テハ同表ニ掲クル

正肋材ト同寸法ノ山形材二條ノ間ニ取附ケ船底ニ於テハ二列釘ヲ以テ肋板ニ固着シ甲板及ヒ二重底ノ内底板ニハ其ノ兩面ニ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ固着スヘシ

第百六十七條 支水隔壁ニハ一面ニハ堅ニ、他面ニハ横ニ防撓材ヲ設クヘシ防撓材ニハ

第一號表ニ掲クル正肋材ヨリ小ナラサル山形材ヲ用キ堅防撓材ハ毎二呎六吋以内ノ距離ニ設ケ隔壁ノ上部ヨリ船底迄達セシム二重底ヲ備フル場合ニハ肘板ヲ以テ之ヲ内底板ニ固着スヘキ又横防撓材ハ最下層ノ甲板以下ニ於テ每四呎以内ノ距離ニ設クヘシ

船首隔壁及ヒ最大幅四十呎以上ノ隔壁ノ横防撓材ニハ第四號表ニ掲クル鐵甲板若ハ鋼甲板ニ取附クヘキ梁ト同寸法ノ球山形材ヲ用キ肘板ヲ以テ之ヲ船側ニ固着スヘシ

幅三十六呎以上四十五呎未滿ノ隔壁ニハ最下層ノ甲板ヨリ船底ニ達スル防撓桁板一箇幅四十五呎以上五十五呎未滿ノ隔壁ニハ二箇又幅五十五呎以上六十呎未滿ノ隔壁ニハ三箇ヲ増設スヘシ

第六十八條 艙梁ヲ除キ最下層ノ梁上ニ於テ支水隔壁ノ前後ニ甲板ヲ張ラサルトキハ最下層ノ甲板ト船底トノ中間ニ於テ適當ノ位置ニ第六十一條ニ掲クル溝形特設艙梁ト同寸法ノ横防撓材一本ヲ増設スヘシ

第六十九條 特設肋骨ヲ以テ最下層ノ甲板梁及ヒ艙梁ニ代用シタルトキハ支水隔壁ノ中央ニ於テ堅ニ桁板、横ニ溝形梁一箇ヲ増附スヘシ

第七十條 船首隔壁ヲ除キ其ノ他ノ隔壁ニハ盜水孔ヲ設クルモ妨ナシト雖モ之ヲ設クルトキハ支水瓣或ハ支水嘴子ヲ備フヘシ

支水瓣若ハ支水嘴子ハ最大喫水線以上ニ於テ開閉シ得ヘキ構造ト爲シ且常ニ檢査シ得ヘキ様装置シ又其ノ破損ヲ防ク爲メニ覆箱ヲ設クヘシ

第七十一條 支水隔壁ニ於テ螺旋軸及ヒ諸管等ノ貫通スル部分ハ水密ニ構造スヘシ

第七十二條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ニハ最大喫水ニ相當スル高迄水ヲ充タシ其ノ他ノ隔壁ニハ唧筒ヲ以テ水ヲ注射シ隔壁ノ水密ヲ試験スヘシ

第二十一章 甲板
第七十三條 重甲板船及ヒ輕甲板船ノ上甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ正甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

覆甲板船ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ重甲板船ノ正甲板ニ要スルモノニ等クシ正甲板ノ厚ハ其ノ正甲板ノ厚ヨリ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

上甲板及ヒ正甲板ハ總テ水密ト爲スヘシ

木甲板ノ固着釘ノ寸法ハ左表ニ據ルヘシ

木 甲 板	ノ	厚	固 着 釘	ノ	徑
二吋半	以上	三吋半	未 滿	十 六 分	ノ 八 吋
三吋半	以上	四吋	未 滿	十 六 分	ノ 九 吋
四				十 六 分	ノ 十 吋

第七十四條 鐵甲板若ハ鋼甲板ニ木板ヲ張ルトキハ其ノ厚ハ上甲板ニ於テハ柔材ナレハ三吋堅材ナレハ二吋二分ノ一ト爲ヘシ但下層ノ甲板ニ於テハ柔材ヲ用ウルモ二吋二分ノ二ト爲スコトヲ得

第七十五條 暴露甲板ニ木板ヲ張ルトキハ其ノ甲板ノ周圍ニハ堅材ヲ用ウヘシ

第七十六條 木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ振止釘一本ヲ以テ每梁ニ固着シ幅六吋ヲ超ユルトキハ二本ヲ以テ每梁ニ固着スヘシ但幅八吋以下ナルトキハ其ノ一本ハ振込釘ヲ使用スルコトヲ得

梁上ニ鐵板若ハ鋼板ヲ張リタルトキハ之ニ木甲板ヲ固着スヘシ

第七十七條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ以テ木甲板ニ代用スルトキハ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ其ノ甲板梁ハ第九十三條ノ規定ニ依ルヘシ

第七十八條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル場合及ヒ其ノ厚ハ第五號表ニ據ルヘシ但輕甲

板船ニ於テハ長ト深トノ割合ニ長ト正甲板迄ノ深トノ割合ヨリ二ヲ減シタルモノヲ用
ウヘシ

船ノ中央ニ於ケル鐵甲板ノ厚十六分ノ七吋鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋乃至二十分ノ九吋
ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニテハ鐵甲板ナルトキハ十六分ノ一
吋鋼甲板ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減シ又鐵甲板ノ厚十六分ノ八吋以上鋼甲板ノ厚二
十分ノ十吋以上ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八分
ノ一間ハ鐵甲板ニ於テハ十六分ノ一時鋼甲板ニ於テハ二十分ノ一時首尾ニ在テハ鐵甲
板ニ於テハ十六分ノ二吋鋼甲板ニ於テハ二十分ノ二吋ヲ減スルコトヲ得

第七十九條 第五號表ニ據リ船ノ全長又ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ一層ノ
鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スルトキハ二層重甲板船ニ於テハ重甲板三層重甲板船ニ於テハ
重甲板若ハ正甲板輕甲板船ニ於テハ輕甲板若ハ正甲板鋼甲板船ニ於テハ正甲板ニ之ヲ
設クヘシ

中央部ニ於ケル船ノ長ノ二分ノ一間ニ鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ張ルトキハ其ノ前後ニ於テ
船ノ長ノ八分ノ一間ハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ之ヲ會セシムヘシ

第八十條 鐵甲板及ヒ鋼甲板ノ接合ハ一列釘ヲ以テ固着シ得ル其ノ横縁ハ中央部ニ
於テ船ノ長ノ二分ノ一時ハ二列釘ヲ以テ固着スヘシ又鐵甲板及ヒ鋼甲板ハ木板ヲ張ル
ト否トニ拘ハラス水密ト爲スヘシ

第八十一條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ其ノ甲板ニ艙口其ノ他大ナル口ヲ

設ケルトキハ補強ノ爲メ適當ノ構造ヲ爲スヘシ

第二十二章 二重底及ヒ水艙

第八十二條 二重底ノ内底板及ヒ水艙ノ頂板ニハ密閉シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ鐵製
又ハ鋼製ノ蓋板ヲ備ヘ且其ノ周圍ニハ蓋板ヲ受クル爲メ緣環ヲ取附クヘシ

二重底ノ側桁板及ヒ區畫式二重底ノ肋板ニハ人孔ヲ設クヘシ但中心線桁板ニハ之ヲ設
クヘカラス

第八十三條 二重底及ヒ水艙ハ總テ水密ニ構造シ且之ニ排氣管ヲ設クヘシ

第八十四條 機關室ノ全部ニ二重底ヲ設クルトキハ機關室後端ノ隔壁ト其ノ前部ニ於
テ之ニ鄰接スル肋骨トノ間ニ塗水溜ヲ設クルコトヲ得

第八十五條 二重底ハ船ノ最大喫水ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ
艙首隔壁ノ前部及艙尾隔壁ノ後部ヲ水艙トシテ使用シ又ハ艙内ニ水艙ヲ設クルトキハ
其ノ頂板上八呎ヨリ少カラス且最大喫水ヨリ少カラサル高ニ相當スル水高壓力ヲ以テ
其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第二十三章 區畫式二重底

第八十六條 區畫式二重底ノ内底板緣板縱通桁板肋板肘板山形材ノ寸法及ヒ員數ハ第
六號表ニ據ルヘシ但中心線ニ於ケル内底板ノ幅ハ第二號表ニ掲クル龍骨翼板ノ幅ヨリ
少カラス又瀝離室ニ於ケル肋板ノ厚ハ鐵ナルトキハ十六分ノ一時鋼ナルトキハ二十分
ノ一時ヲ増スヘシ

第百八十七條 二重底内ニ於テハ肋骨一本置ニ一枚板ノ肋板ヲ設ケ其ノ上端一面ニ山形材ヲ取附クヘシ但第二敷一萬一千以下ナルトキハ組合セ板ノ肋板ヲ用ウルコトヲ得
汽機ノ下ニ於テハ肋骨毎ニ汽罐ノ下ニ於テハ肋骨一本置ニ上端両面ニ山形材ヲ附シタル一枚板ノ肋板ヲ設クヘシ

第百八十八條 平板龍骨ヲ有スル船舶及ヒ第二敷一萬八千以上ニシテ側板龍骨ヲ有スル船舶ニ於テハ肋骨ヲ附セサル肋骨ハ肘板ヲ以テ之ヲ中心線桁板ニ固着スヘシ但第二敷三萬八千以上ノ船舶ニ於テハ肘板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ内底板ノ下面ニ附スル山形材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固着スルニ充分ナラシムヘシ

第百八十九條 縁板ハ第六號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板ニ固着シ且二重底ノ外部ニ於テハ肋骨毎ニ内部ニ於テハ肋骨ヲ附セサル肋骨毎ニ肘板及ヒ山形材ヲ以テ固着スヘシ但第二敷三萬八千以上ノ船舶ニ於テハ内部ニ附スル肘板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ内底板ノ下面ニ附スル山形材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固着スルニ充分ナラシメ又外部ニ附スル肘板ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ其ノ両面ニ山形材ヲ附シテ之ヲ縁板ニ固着スヘシ

第百九十條 内底板ノ下面ニハ肋骨ヲ附セサル肋骨ニ對スル部分ニ肋板ノ上端ニ附スル山形材ニ要スルモノト同寸法ノ山形材ヲ取附クヘシ

第百九十一條 中心線ニ於ケル内底板ノ接合及ヒ機關室ニ於ケル内底板ノ横縁ハ二列釘固着ト爲スヘシ

第百九十二條 側桁板及ヒ縁板ノ横縁ハ二列釘固着ト爲スヘシ
中心線桁板ノ接合ハ二重覆板ヲ附シ三列釘固着ト爲スヘシ但終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減シ又第二敷二萬一千以下ナルトキハ二列釘固着ト爲スコトヲ得
各覆板ノ厚ハ接合スヘキ板ノ厚ノ二分ノ一ニ鐵ナルトキハ十六分ノ二吋鋼ナルトキハ二十分ノ三吋ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

第百九十三條 肋骨毎ニ中心線桁板ヨリ縁板迄貫通スル肋板ヲ用キテ區畫式二重底ヲ造スルトキハ機關室及ヒ第二敷二萬四千以上ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル肋板ノ両面ニ堅ニ山形材ヲ附シテ中心線桁板ニ固着シ且中心線桁板ト縁板トノ大約中央ニ斷切桁板ヲ設ケ山形材ヲ以テ之ヲ肋板 内底板及ヒ外板ニ固着スヘシ又内底板ニ於テ測リタル縁板間ノ幅三十四呎以上ノ部分ニハ斷切桁板二條ヲ設ケ

汽機室ニ於テハ第六號表ニ掲クル側桁板ト同數ノ斷切桁板ヲ設クヘシ

第百九十四條 區畫式二重底ノ部分ニ於ケル外板ハ肋骨毎ニ肋板ヲ附シタルトキハ龍骨翼板ヲ除キ鐵ニテ厚十六分ノ十吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ十一吋以上ノモノニ限リ第一號表ニ掲クル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減ス

ルコトヲ得

第九十五條 二重底ノ構造ニ於テ肋板、肘板及ヒ斷切桁板等ニ矩形鋼板ヲ使用スルトキハ其ノ厚ハ第六號表ニ掲クルモノニ十分ノ一吋ヲ増スヘシ

第二十四章 肋骨ニ縦通桁板ヲ用キテ構造シタル二重底

第九十六條 肋骨上ニ縦通桁板ヲ用キテ構造シタル二重底ノ内底板、緣板、縦通桁板肘板ノ厚及ヒ山形材ノ寸法ハ第六號表ニ據リ縦通桁板間ノ距離ハ三呎ヲ超ユヘカラス
二重底ノ緣板ハ第六號表ニ掲クル山形材ヲ以テ外板ニ固着シ且其ノ内外ニ於テ肘板及ヒ山形材ヲ以テ肋骨毎ニ固着スヘシ但外部ニ附入ル肘板ハ彎曲上部ニ達セシムヘシ
内底ノ接合ハ一列釘ヲ以テ固着シ得ヘシト雖モ緣板ノ橫縁ハ二列釘固着ト爲スヲ要ス

第九十七條 二重底内ニハ彎曲部内龍骨及ヒ翼内龍骨ヲ設タルヲ要セス但二重底ノ全通セサルトキハ之ヲ肋骨間ノ距離ノ三倍ノ間ニ重底内ニ延長シ且爲シ得ヘキ部分ニ於テハ之ヲ縦通桁板ニ固着スルカ若ハ縦通桁板ヲ二重底分ニ延長シテ之ヲ固着スヘシ
縦通桁板ニハ其ノ上下両端ニ縦通スル山形材ヲ取附ケ上端ハ内底板ニ下端ハ二重副肋材ニ之ヲ固着スヘシ

第九十八條 二重底ヲ設クル部分ニ於ケル外板ハ龍骨翼板ヲ除キ鐵ニテ厚十六分ノ十吋以上、鋼ニテ厚二十分ノ十一吋以上ナルトキハ第二號表ニ掲クル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第二十五章 内張板

第九十九條 船底ニ於テ彎曲上部迄ハ厚二吋半ヨリ少カラサル木板ヲ張詰メ其以上船側ニ於テハ厚二吋ヨリ少カラサル木板ヲ張詰ムルカ若ハ適當ノ間隔ニ之ヲ取附クヘシ但検査又ハ塗替ノ爲メ容易ニ取外シ得ヘキ様取附クルヲ要ス

第一百條 二重底ノ内底板ニハ横ニ枕木ヲ設ケ之ニ厚二吋半ヨリ少カラサル内張板ヲ取附クヘシ

第二十六章 車軸隧道

第一百一條 車軸隧道板ノ厚ハ第一號表ニ掲クル隔壁ノ下部ニ用ウヘキ板ノ厚ニ等クシ艙口ノ直下ニ於ケル頂板ノ厚ハ鐵ナルトキハ之ニ十六分ノ二吋以上、鋼ナルトキハ二十分ノ二吋以上ヲ増スカ若ハ厚二吋以上ノ木板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
車軸隧道ニハ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ横ニ四呎以内ノ距離ニ取附クヘシ但艙口ノ直下ニ於テハ其ノ距離三呎ヲ超エス又船尾隔壁ノ前部ニ於テ船側ニ固着スル頂板ニハ肋骨間ノ距離ト同距離ニ之ヲ設クヘシ
車軸隧道ハ水密ニ構造シ機關室後端ノ隔壁ニ設クル車軸隧道ノ出入口ニハ支水戸ヲ備ヘ最大喫水線以上ニ於テ之ヲ開閉シ得ヘキ裝置ト爲ヘシ

第二十七章 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓

第一百二條 龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深十四呎未満ノ船舶ニハ特ニ相當ノ補強構造ヲ加フルニアラサレハ船首樓又ハ船尾樓ヲ設クルコトヲ得ス

第一百三條 船首樓及ヒ船尾樓ノ外板、梁上帶板、梁上側板、梁上側板ノ山形材及ヒ木

甲板ノ寸法ハ上甲板ニ要スルモノヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得但外板ハ覆甲板船ノ上部ニ用ウヘキモノヨリ厚キヲ要セス

外板、梁上側板及ヒ梁上帶板ノ横線ハ二列釘固着ト爲スヘシ

第二百四條 梁ハ肋骨一本置ニ取附ケ之ニ梁柱ヲ設クヘシ又船體上端ノ形狀圓形ナルトキハ長十八吋以上梁ノ正肋材ニ重テニ固着スヘシ

第二百五條 第二數一萬八千以上ノ船舶ノ船首樓ニ於テハ肋骨一本置ニ副肋材ヲ船首樓甲板迄達セシメ若ハ上甲板ト船首樓甲板ト船首樓甲板トノ中央ニ於テ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ二枚合セト爲シ之ヲ兩舷ニ取附ケ其ノ前端ハ肘板ヲ以テ結續スヘシ

第二百六條 船體上端ノ圓形ナル部分ニ用ウル外板入厚ハ船首樓或ハ船尾樓ノ梁上側板ニ要スルモノニ等クスヘシ

第二百七條 船尾樓及ヒ船橋樓ノ前端ニ於ケル隔壁ノ厚ハ外板ニ等クシ鐵ナルトキハ之ヨリ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時厚キ緣材ヲ備フヘシ

隔壁及ヒ緣材ニハ船首樓梁ニ要スルモノト同寸法ノ球板ヲ第一號表ニ掲クル副肋材ト同寸法ノ山形材ヲ以テ堅ニ三十吋ノ距離ニ取附ケ其ノ上下兩端ハ肘板ヲ以テ之ヲ鐵甲板若ハ鋼甲板或ハ梁上ニ設クル鐵板若ハ鋼板ニ固着スヘシ但船尾樓及ヒ船橋樓短キトキハ第一號表ニ掲クル正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ以テ球板及ヒ副肋材ト同寸法ノ山形材ニ代フコトヲ得

第二百八條 船橋樓ノ前後ニ於テ之ニ鄰接スル舷牆板ハ特ニ之ヲ厚クシ肘板ヲ以テ之ヲ支ヘ且排水孔ニハ緣環ヲ取附クヘシ

第二百九條 船尾樓ノ長、船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ輕甲板舷側板若ハ重甲板船ノ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ且船尾樓ノ前端ヨリ前後十呎以上ノ間上甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ増スヘシ

第二百十條 船橋樓ノ正肋材ヲ上甲板ニ於テ斷切スルトキハ其ノ下端ハ肘板ヲ以テ上甲板ノ梁上側板ニ固着スヘシ

第二十一條 第二數一萬五千以上ニシテ船尾樓若ハ底船尾樓ト船橋樓トノ合長、船ノ長ノ五分ノ二ヲ超ユル船舶又同數ニシテ深ノ十一倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ船ノ長ノ五分ノ一以上ナル船橋樓ヲ設クルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ輕甲板舷側板石ハ重甲板船ノ舷側厚板ヲ二重張ト爲スヘシ

第二十二條 船橋樓ノ外板及ヒ梁上側寸法ハ左表ニ據リ梁上側板ニ附スヘキ山形材ハ正甲板ノ梁上側板ニ要スルモノト等クシ梁上帶板及ヒ木甲板ノ寸法ハ上甲板ニ要スルモノヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

第一數	鐵	端	其	鋼	板
一萬五千未滿	幅三十一吋 厚十六分ノ八吋	幅三十一吋 厚二十分ノ八吋	厚十六分ノ八吋	厚二十分ノ八吋	

甲板若ハ鋼甲板ハ肋骨間ノ距離ニ二倍若ハ三倍後部ニ延長シテ低船尾樓ト相累ヌヘシ
低船尾樓ノ前端ニ設クル隔壁ノ後面ニハ第五號表ニ掲クル上甲板ニ等キ厚ノ膜板四箇
以上ニ堅ニ甲板間ニ取附ケ其ノ両面ニ山形材ヲ用キテ之ヲ隔壁及ヒ上下ノ鐵板若ハ鋼
板ニ固着シ且膜板ノ後縁ニハ山形材ヲ取附クヘシ

隔壁ノ前面ニハ前項ノ膜板ヲ附シタル部分ニ幅十五吋ヨリ少カラサル防撓板ヲ取附ケ
肘板ヲ以テ之ヲ上下ノ鐵板若ハ鋼板ニ固着スヘシ

隔壁ノ前後ニ於テ長十八呎以上ノ間ハ低船尾樓ノ外板ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百十八條 第二數二萬四千以上二萬六千未満ノ船舶ニ於テハ肋骨間ノ距離ノ四倍第
二數二萬六千以上ナルトキハ五倍上甲板及ヒ低船尾樓ノ甲板ヲ相累テ隔壁ノ前面ニ附
スル防撓板ノ幅ヲ十八吋以上ト爲シ且船尾ヨリ測リ船ノ長ノ四分ノ一ノ所ヨリ隔壁ノ
前部八呎ノ所迄低船尾樓ノ外板ヲ二重張ト爲スヘシ

第二百十九條 上甲板ヲ隔壁ノ後部ニ延長スルコトヲ要セサル船舶ニ於テハ其ノ大小及
ヒ長ト深トノ割合ニ依リ隔壁ノ両面ニ第五號表ニ掲クル上甲板ニ等キ厚ノ肘板各四箇
又ハ五箇ヲ取附ケテ外板ニ固着スヘシ

第二百二十條 第二數二萬ヲ超ユルカ又ハ深ノ十三倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ於テハ
隔壁ト汽機室口ノ後端トノ距離ハ肋骨間ノ距離ノ四倍ヨリ少カルヘカラス

第二百二十一條 低船尾樓ノ鐵甲板若ハ鋼甲板ハ其ノ両面ニ正甲板ノ梁上側板ニ附スヘシ
キ形材ニ要スル寸法ノ山形材ヲ附シテ隔壁ニ固着スヘシ

第二十九章 適當比例ノ船舶

第二百二十二條 適當比例ノ船舶トハ長、深ノ十一倍ヲ超ユルモノヲ謂フ

適當比例ノ船舶ニハ其ノ長ト深トノ割合及ヒ第二數ニ依リ本章ノ規定ニ從ヒ縱強力ヲ
增加スヘキ構造ヲ爲スヘシ

第二百二十三條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超ユ十二倍以下ニシテ第二數一萬四百五十未満
ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ舷側厚板ノ厚ヲ鐵ナルトキハ十六
分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増シ彎曲部内龍骨ニ第四號表ニ掲クル正甲板梁
ニ用ウヘキモノト同寸法ノ球板ヲ挿入シ且彎曲部ニ於ケル外板一條ノ厚ヲ鐵ナルトキ
ハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百二十四條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超ユ十二倍以下ニシテ第二數一萬四百五十以上
一萬五千五百未満ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部ニ於ケル外板一條ニ第二數
二十三條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ舷側厚板ノ厚ヲ
鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百二十五條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超ユ十二倍以下ニシテ第二數一萬千五百以上一
萬八千七百未満ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨及ヒ彎曲部ニ於ケル外板一條ニ第二數二
十三條ニ規定シタル増補ヲ爲シ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ舷側厚板ノ厚ヲ鐵
ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時増スヘシ

第二百二十六條 船ノ長、深ノ十一倍ヲ超ユ十二倍以下ニシテ第二數一萬八千七百以上